



2008年はエフピコ環境経営
5ヵ年計画の3年目です。

2008 CSR REPORT

To be a company that
links people with people,
people with nature,
and companies with society

環境・社会活動レポート



食卓に味わいを。
売り場に彩りを。
そして環境にやさしさを。



食の安全が脅かされるニュースを頻繁に耳にする現在
食品容器への要求も、日々高度なものになっています。
食品を、新鮮で衛生的に、安全に流通させること。
美味しさを引き立てる、デザインや工夫があること。
そして、環境負荷を可能な限り低減させること。

食品容器メーカーである私たちエフピコグループは
それらの要求に応えるべく、製品の設計段階から、安全・安心、環境負荷低減などに配慮した
さまざまな活動に取り組んでいます。
この冊子では、2006年度より取り組んでいる「環境5カ年計画」の達成に向けた活動を中心に
企業の社会的責任を果たすための取り組みについて掲載しております。
最後までお読みいただき、ご意見をいただければ幸いです。



■ 製 造

- ・株式会社エフピコ仙台
- ・株式会社エフピコ山形
- ・株式会社エフピコ下館
- ・株式会社エフピコ茨城
- ・株式会社エフピコ中部
- ・株式会社エフピコ箕島
- ・株式会社エフピコ福山
- ・株式会社エフピコ笠岡
- ・株式会社エフピコ神辺
- ・株式会社エフピコ佐賀
- ・株式会社エフピコエンジニアリング
- ・株式会社ダックス
- ・株式会社ダックス四国
- ・株式会社ダックス佐賀
- ・広島愛バック株式会社
- ・エフピコ愛バック株式会社
- ・株式会社ノダヤ
- ・ティカ精密株式会社

■ 物 流

- ・エフピコ物流株式会社
- ・エクセル物流株式会社
- ・エフピコピッキング株式会社
- ・エフピコ中部物流株式会社
- ・エフピコ関東ピッキング株式会社
- ・エフピコ九州物流株式会社
- ・株式会社アイ・ロジック

■ 商 社

- ・エフピコ商事株式会社

■ 販 売

- ・エフピコチューパ株式会社

■ 小 売

- ・株式会社エフピコモダンバック

■ その他

- ・株式会社クックラボ

エフピコグループ 株式会社エフピコ

CONTENTS

エフピコグループについて	1
CONTENTS	2
編集方針	2
巻頭特集・トレーリサイクル最前線	3
環境対談・崎田裕子氏×小松安弘	7
エフピコのリサイクルプロセス	13
取り組みの成果	15
工場見学のご案内	17
トピックス	18

経営面における取り組み

経営スローガン・会社概要	19
主要な経営指標	20
コーポレートガバナンス	21
コンプライアンスとリスク管理	23

環境面における取り組み

環境方針	25
環境マネジメント体制	26
環境経営5カ年計画の進捗状況	27
物質の流れ	29
エフピコのステークホルダー	31
製品開発における配慮	33
工場における配慮	35
物流における配慮	37
オフィスにおける配慮	39

社会面における取り組み

消費者とのかかわり	41
株主とのかかわり	43
お客さまとのかかわり	44
従業員とのかかわり	45
地域とのかかわり	47
エフピコのあゆみ	49

編集方針

この「CSR Report 2008」は、エフピコの2007年4月から2008年3月までの環境と社会活動における取り組みをまとめたものです。以下の方針に沿って編集しています。

- エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載する心がけをしました。
- 2007年度は、エフピコが掲げる「環境経営5カ年計画（対象期間：2006年4月～2011年3月）」の2年目にあたります。この期間における、エフピコの環境経営への取り組みによる成果を客観的に報告するとともに、それを踏まえた今後の目標・取り組み姿勢などを明確に打ち出すよう配慮しました。
- レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告書ガイドライン（2006年度版）」を参考にしました。
- 対象期間：2007年4月1日～2008年3月31日
- 対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ



誌上リサイクル工場見学

トレーリサイクル



2008.03 某日

🕒 9:00

のどかな田園地帯の真ん中にそびえる、エフピコのロゴマークが掲げられた航空母艦のような巨大な建物。その一角に「関東リサイクル工場」はある。関東地方一都六県のスーパーマーケットや生活協同組合等で回収された使用済みトレーを、エコトレーの原料である「ペレット」に加工する工場だ。処理能力は、年間3,800トン。トレーに換算して、約9億5,000万枚にもなる。

そして、先ほどから次々と門をくぐるトラックのほとんどは、各地の小売店や卸問屋にトレーを配送した帰りに積み込んだ、「使用済みトレー」を満載している。トレー配送／使用済みトレー回収のトラックは、短いルートなら1日に約30km、長距離を走るトラックになるとおよそ400kmを走行してこのリサイクル工場へとたどり着く。そして、ここで使用済みトレーを入れた袋を降ろすことで、トレー配送・回収の仕事が完了することになるのだ。自前の物流を抱えているこの企業ならではの効率的な動きといえそうだ。

最前線

関東全域のスーパーマーケット等で集められた使用済み食品トレーのリサイクルを手がける、エフピコ「関東リサイクル工場」。
業界で唯一、トレーリサイクル(トレー to トレー)の体制を
全国で整え運用しているのだ。そのリサイクルの現場をのぞいてみた。



写真上：「容器リサイクル法」に基づき自治体で行われる回収では白色発泡スチロールトレーのみが対象となる。

写真中：ポリ袋から取り出したトレーは、まず人の手でリサイクルできるものとできないものに仕分けられる。

写真下：白く光っているものは、カラートレーと白トレーに分別する装置。



場所を移して、工場内を一望できる見学通路へ。さっき間近に眺めた山の反対側も見ることができる。そこでは、山に立ち向かうように、4人の作業員が立ち働いていた。一人が積み重ねられた袋を一つひとつ手で開封して、ベルトコンベヤーにつながる鉄柵に入れていく。もう一人が、鉄柵の中のトレーを一つ一つ確認してコンベヤーに流す。このラインが2ライン同時に稼働し、山脈を少しでも小さくしようとがんばっている。が、そうやって働いている作業員自身が、すでに半分、山に飲み込まれかけているようにも見える。壁のようにそびえる使用済みトレーの山脈の上からさす光が、まるでご来光のように見えた。

作業の様子をよく見てみると、確認係の作業員がときどきなにかを取り除いている。「それは不適品ですよ」案内役の男性が答える。「不適品というのは、トレーリサイクルの際に支障となる容器のことです。たとえば、納豆の容器は洗ってもぬめりが完全にとれないため、リサイクルのラインからは外さざるをえないんです。また、カップラーメンの容器は、生地が油を多く吸ってしまうため、これも再利用には適しません」ここでは、そういったリサイクルに適さない容器を手作業で取り除いているのだ。

先ほども説明したが、この施設の処理能力は、年間約9億5,000万枚。その最初の分別は、なんと人の手で行われ

ているのである。機械では、容器の素材や白トレーとカラートレーの判別はできても、汚れの程度や用途までは判別できない。同じ素材でできたさまざまなトレーを、熟練の作業員たちは的確に、そして素早く判断して選り分けていく。根気のいる作業である。作業はまだ始まったばかりだ。

🕒 10:00

ラインを流れるトレーは、その後白いトレーとカラートレーに機械で分別され、最後の確認を、やはり人の手で行う。3重のチェックを経て分別されたトレーは、回転ドラム型の洗濯機のような機械での洗浄を経て、乾燥・粉碎されるが、洗浄から先の工程は、通常は外からは伺い知ることにはできない。やがて、我々の前にトレー（だったもの）が再び現れるのは、溶融・加工のラインだ。トレーを溶かしたポリスチレンが、異常に長いスパゲティ状に押し出され、湯気を上げながらコンベヤーの上に伸びていく。そして冷やされたそれがカッターで裁断されていくのだが、その様子は、まるで食品工場のようなのだ。同じ工場の同じラインなのに、前半は何かの処理場のようにも見え、後半はいかにも食品工場か工業製品工場の雰囲気。とても一続きのラインとは思えない、不思議な眺めであった。



写真上：機械によって白トレーとカラートレーを選り分けた後、さらに人の目でも確認。確実な分別を行います。

写真下：リサイクルできるトレーだけが、コンベアに乗って洗浄機の中へと運ばれる。



溶かされたトレーが、スパゲティのように押し出され、コンベアの上に伸びていく。



カッターで裁断され、エコトレーの原料であるペレットになる。

🕒 14:00

作業員たちの健闘により、山の高さが低くなってきた。と思いきや、山脈の裾野は工場の建物から外に伸びそうな勢いで広がっている。続々と到着するトラックからは、新しい袋が次々と降ろされる。山脈のこちら側では作業員が山を切り崩し、袋の開封を行う一方、山脈の反対側ではトラックから降ろされる使用済みトレーの入った袋をさばくために、ショベルカーが登場した。豪雪地帯の除雪に使うような、大きなショベルカーである。大きなエンジン音をたてながら、巨大なバケットで何袋ものトレーを持ち上げ、積み上げる。その光景は、ここが使用済みトレーのリサイクル工場であることを疑わせる。

終わりのない攻防戦。ここでやっと気が付いた。この作業は、金鉱を掘る作業なのだ。トレーのリサイクルを知らない人が見れば、これは単なるゴミの山にしか見えないはずだ。ところが、きちんとリサイクルを知っているこの企業の人たちは、これを掘って、金を精製するが如く、資源として再生していくことができる。もっと早くに気が付くべきであった。このトレーの山は、金山と同じだったのだ。

🕒 18:00

終業のベルとともに、機械が止まる。残念ながら、この日は、積み上げられたトレーを全て処理することはできなかったようだ。「いつもこの状態です」と、案内役の男性が、こんどは耳もとではなく、こちらを向いて小さく笑いながら言った。こうして、リサイクル工場の一日は終わる。しかし、翌朝には、また同じような光景が繰り返される。終わりのない繰り返しだ。

しかし、確かなことは、何もしなければゴミとして捨てられるはずだったトレーが、立派な資源として再生され、エコトレーへと生まれ変わる。そして、明日もまた、多くの「資源」予備軍である使用済みトレーが、この搬入口から運び込まれるということだ。

人の暮らしに食がある限り、この工場もまた、休むことはないのだろう。そんなことを考えながら、記者は工場を後にした。

環境ジャーナリスト

崎田裕子

'08.3.6



環境対談

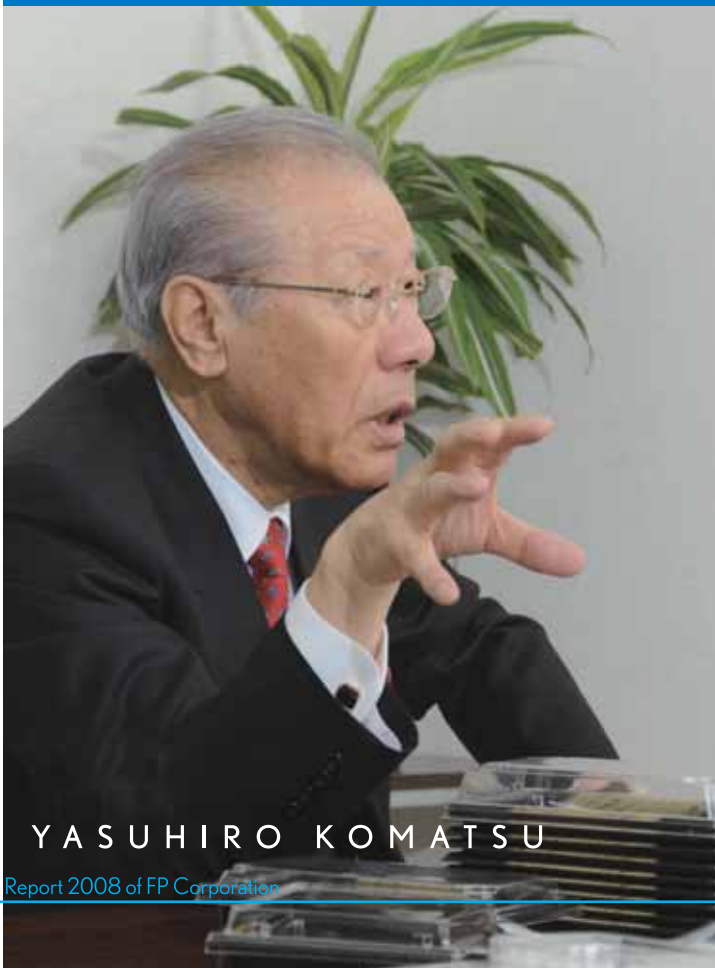
エフピコ社長

小松安弘



エコロジーとエコノミーを 両立させる企業活動を目指して

環境対談



YASUHIRO KOMATSU

環境問題、循環型社会づくりなどのテーマを専門とされる環境ジャーナリスト、崎田裕子氏をエフピコ関東リサイクル工場にお招きし、トレーリサイクルの現場をご視察いただきました。そののち、企業と環境問題のこれからについて、エフピコ社長・小松安弘と意見交換をしていただきました。女性として、あるいは生活者として。作り手とは異なる「消費者」の目線からの貴重なご意見をたくさんお聞きすることができた、有意義な対談となりました。

崎田裕子氏プロフィール

環境問題、循環型社会づくりをテーマに講演・執筆活動を行っている、フリーの環境ジャーナリスト。環境省登録の環境カウンセラーとして、環境問題の啓発活動を精力的に続けるかたわら、政府の中央環境審議会等のメンバーとして、環境問題解決に向けて提言を行っています。

エフピコ関東リサイクル工場見学風景



集められたトレーの量に驚く崎田さん。
説明を受ける間にも、次々と新たなトレーが到着する。



機械でカラートレーと白いトレーを選別している様子を
熱心にご覧になっていました。



使用済みトレーの搬入から、トレーの材料となる
「ペレット」の造粒までをご覧いただきました。



真剣な面もちで説明を聞かれる崎田さんの姿に、
小松の説明にも思わず熱がこもります。



見学の最中にもさまざまな質問や意見が投げかけられ、
相互理解を深める貴重な時間となりました。



再生材料を利用したブロックで作った恐竜も
ご覧いただきました。

まず、工場をご覧になった感想を 聞かせてください。

崎田

こんなに本格的な設備で、真剣にトレーからトレーに再生するリサイクルに取り組んでおられるのを、実際に目の当たりにすると、その努力が伝わってきますね。

それから、工場内が非常にきれいに保たれていますね。リサイクル工場にうかがうと、失礼ですが、もっとくさったりきたないことが多いのですが、エフピコさんの工場にはまったくそんなことを感じませんでした。これは消費者の方々が、しっかり洗ってから店頭の回収ボックスに持ってきてくださるからですか？

小松

そうですね。消費者の方のご協力はもちろんですが、当社からもスーパーさんに根気よくお願いして、きれいな状態でトレーを回収できるようご協力いただいています。我々は、自分たちがゴミを集めているとは思っていません。資源を集めているのです。そういった、皆さまのご協力があって、工場もきれいに保たれているのです。以前、若林前環境大臣が視察にいらした際も、同じ点で驚いていらっしゃいましたよ。

崎田

工場の清潔さも驚きですが、もっと驚いたのが、これだけ手をかけてトレーを再生しているのに、なおかつしっかり利益が出ていることですね。なかなか環境と経済を両立させることは難しいと思うのですが、何か他社と違った工夫などがあったのでしょうか。

小松

当社は自前の物流部門を持っていたので、トレーを配送したトラックが、帰りに使用済みトレーを回収するという「静脈物流」を導入するための土壌が整っていました。それが大きく事業に貢献したのだと思います。そうはいても、回収・リサイクルのシステムを作ることは容易ではなく、最初は利益がなくなることも覚悟ではじめたのです。業界団体からの反発も大きかったですね。

崎田

以前、シンポジウムでエフピコさんの取り組みを知って、「こんなに先を見つめた対策をしている企業があるんだ」と感動したのを覚えています。今でこそ、問題が発覚してから対応策を考えるより、事前にしっかりと環境対策をすることが、結果として安上がりになることが知られていますが、20年も前に、すでにこのようなシステムを独力で作り上げていることは、本当にすごいと思います。

エフピコの現状を教えてください。

小松

マスコミでも報じられているとおり、トレーの材料となる原油価格は現在高騰しています。しかし当社では、早くからトレーのリサイクルに取り組み、回収・再生のシステムを整備してまいりました。そのため、現在のように原油高になっても、その影響を大きく受けずにすみしました。

幸いリサイクル工場の機器の償却やリースも済み、利益を生み出せる状況になりました。運が良かった、と言えると思います。

崎田

一人勝ち、のような状況なのでしょうか。

小松

そう言えるかもしれません。ただ、ビジネスとして考えれば一人勝ちは望ましいことかもしれませんが、業界全体のことを考えると、自社が一人勝ちになることが無条件で良いことだとは考えていません。むしろ「エコトレー」のようなリサイクルトレーの販売において、競合となるような会社が出てきてくれることを望んでいます。

ただ、私たちほどCO₂削減のことを言い続け、実行してきた会社はない、という自負もありますから、ライバルが登場するには、もう少し時間がかかるかもしれませんね。

エフピコにおける環境保全対策について教えてください。

小松

いま当社では、社内にプロジェクトを組んで、消費エネルギーをどう減らすかを検討しています。当社の工場のエネルギー消費はほとんどが電力であり、その電力の多くは成形機、押出機、コンプレッサー等に使われています。ただ機械というのは新しいタイプほど効率が良くなっているので、現在、よりエネルギー効率の優れた機器へと順次更新を続けています。機器を更新することで、だいたい1割くらいの電力を節約できています。

また、私たちの製品自体についても、生地を薄くしたり素材を発泡させることによって、容器の強度はそのままに軽量化を図ったり、積み重ねたときの厚みを減らすように設計することで輸送効率を高めるロースタック化を進めています。たとえばこの容器では、対策前のものが16gであるのに対して

崎田

… 6gですね。ということは60%以上の軽量化がなされているということですか。見た目は似ていても、手に取るとはっきりと違いが分かるんですね。こういった軽量化というのは、どこまで可能なものなのでしょうか？

小松

強度を保ちながら軽量化を図ることには、当然限界があります。もう少し軽くすることはできるかと思うのですが、あまり軽くなりすぎると、こんどは使う人が不安を感じることがあるのです。ですから、ここから先は(容器に対する)信頼性を損なわない上で、最大限の軽量化を目指して開発を続けていくことになるでしょう。

崎田

ただ軽くすればいいわけではないのですね。それにしても、見た目が同じ製品なのに、実はこんなに改良されているということは、消費者の方々はあまりご存じないのではないのでしょうか。せっかくこういった取り組みを実践されているのですから、消費者の方にも分かりやすく伝えられるといいですね。たとえばトレー自体に、CO₂の削減に配慮した商品であることを示すマークをつけるとか…。





エフピコにおける環境保全対策について教えてください。

小松

いま小売店に向けて販売する際には見積書に重量を書いています。消費者向けについては、シールなどの対応も考えられると思います。それから、いますべての製品において、ライフサイクルアセスメントを実施しています。この製品を作るのに、どれだけのCO₂が出ているのかを把握・開示するとともに、「あと10%減らすにはどうしたらいいか」といった課題解決のための材料としても活用する予定です。

崎田

なるほど。積極的に取り組んでいる姿勢を、もっと強く打ち出すことで、消費者の方々が環境について考えたり、環境に配慮されたものを選択するきっかけを持てるといいですね。

石油資源の有効活用や省エネによるCO₂削減は重要なことですが、最近では「省エネの次は創エネ」といったことも言われています。エフピコさんでは、たとえば太陽光発電や風力、水力、工場から出る廃熱による発電などは行っているのでしょうか？未利用のエネルギー源を使って、どこまで自給自足できるか、ということもまた、これからの課題かもしれません。

小松

昨年末に落成した本社新社屋（福山市曙町）では、屋上に太陽光発電の整備を設けました。その他のエネルギーについてもこれから検討を重ねていく予定です。

崎田

社会全体としては環境保全のためにがんばっている企業を応援したい、そういう企業の商品を買いたいという風潮が高まっているように思います。一層の取り組みを期待したいですね。

小松

ただ問題なのは、こういった対応にはお金がかかります。そうすると、そこに費用をかけることができる企業だけが生き残り、余力のない小さなメーカーなどは対応できず淘汰されてしまうことになります。「勝ち組がますます勝つ」ことで、市場の寡占化が進むことは、長い目で見ると望ましいことではないと思いますね。

これからのトレー業界はどう推移していくと考えますか？

小松

これから、トレーのニーズはどんどん増えていくと思います。現に、大手スーパーではパートの方々の人手が不足してきており、手間と熟練を要するラップがけの作業を減らすために、こういったフタが一体となったトレーが採用されるケースが増えています。

また、今後高齢者家庭の増加や核家族化の進行などにより、ひとり一人で食事をする「個食化」が進んでいくと考えます。その結果、小分けにできる小さな容器へのニーズがよりいっそう高まっていくことが予想されます。ところが、このような小さな容器というのはラップがけが難しいのですね。そこでもフタが一体となった容器のニーズが、より大きくなることが予想されます。

崎田

トレーは減るよりも、むしろ増えていく可能性の方が大きいと予想されているのですね。スーパーで食品を買って、そのパックがゴミ箱にたまっていくのを想像するのは、なんだか心が痛みます。限りのある石油資源を使っているのですから大切にしたい。そう考えると、計り売りなども店頭で選択できると嬉しいですが、個包装を選んだらしっかりとリサイクルする意識を、消費者一人ひとりが持つことが大切になってきますね。

小松

そうですね。それに、さまざまな容器が登場することは、見方を変えればさまざまな食のニーズに応えることができる、ということでもあるのです。ラインナップが増えることで個食のニーズにも応えることができますしね。「(1パックの)量が多くて食べきれない」と敬遠されていた方にも、小さなサイズの容器で提供することで、ご購入いただけるチャンスがくるわけです。それは消費者の選択の幅を広げる、とも言えますよね。原油輸入量の中でトレーが占める割合というのはごく一部です。プラスチック製品全体で見ても6%程度でしょうか。一番使われている原油製品といえば、やはりガソリンなどの燃料ですね。ただ、レジ袋とかトレーというのは使い捨ての象徴として印象づけられてしまったため、環境・省エネ問題がテーマとなるとすぐに引き合いに出されるのは辛いところです。



崎田

レジ袋やトレーの便利さに慣れたせいで、使い捨て型のライフスタイルが定着してしまったという気持ちはあります。買物はものとのつき合いの入口ですから、自分たちも反省して「もったいない精神」を大切にしていけば、社会全体でものを大切にする風潮が高まるのではないかと思います。

そういう意味では、スーパーなどで形のはっきりした野菜などもトレーに入れてラップをつけていることがありますよね。ああいったことも見直す必要があると思います。

小松

ただ、野菜や果物の多くはラップをしないと鮮度が早く落ちてしまうんですよ。ラップをすることで水分の蒸発が防がれ、鮮度が保たれるんです。また、その結果ロス（廃棄分）が減るため、生ゴミの処理費などのコストも減り、販売価格を下げることができます。そしてなにより、中身の廃棄物が減ることは環境保全の観点からも、貴重な食料の最大利用の観点からも大きな意味がありますよね。

崎田

なるほど。

小松

とにかくトレーは環境問題の筆頭にあげられることが多い商品ですが、たとえばトレーがなかったら社会や暮らしがどうなるのか、ということも考えてもらいたいのです。トレーがなかったら、なにかで代替をしなければなりません。その場合、いまと同じように食品を流通させることは難しくなるかもしれませんね。コストが上がり、物価上昇につながるかもしれません。あるいは、食品の衛生状態が悪化して感染症が流行するかもしれません。トレーには食品を衛生的に、かつ安価に流通させるための重要な役割があるのもまた事実なのです。

崎田

たしかに、おっしゃるとおりだと思います。ただ、一般の消費者にはそういった売り手側の情報が少ないと思います。ですから、そういった話を消費者に伝え、どの程度の包装が適切なのか、共に考える場が必要ではないでしょうか。

スーパーの中には、地域との意見交換会を開催するところも増えていると聞いています。お店は消費者との一番の接点なわけですから、こういった機会を利用してお店の人から消費者に、環境面での配慮を行っている旨をしっかりと伝えてほしいですね。生鮮品のラッピングの訳や先ほどのトレーの軽量化など説明していただくと、消費者の環境保全の意識も高まると思います。

小松

たしかに、まだまだ多くの方に誤解されている部分があるので、そういったことを根気強く説明していく必要はありますね。

崎田

産業界はさまざまな方法を模索しながら、環境負荷の低い経営を目指して努力を重ねられていると思います。それに対して、消費者の危機意識はまだまだ弱いですね。生活者の立場で活動する者として、もっと関心を高める必要を感じます。企業からの発信が増えることで、そういった温度差の解消にも役立つのではないのでしょうか。

2008年の北海道洞爺湖サミットなど、「温室効果ガスの排出量を2050年までに半減させる」将来像に向けて、どのように取り組むのが問われています。CO₂排出量を相殺するカーボンオフセットなども、国や産業界だけでなく、私たち消費者もしっかり考える必要がありますよね。



これからどのような活動を進めていく予定ですか？

小松

私たちは今年、いままで回収していなかった透明容器について、回収／再生を行うための施設を建設しています。今年から本格的に回収を開始する予定です。

崎田

透明容器というと…お弁当容器のフタや惣菜のプラスチック容器などですか？

小松

そうです。先ほど工場でご覧いただいた回収ポリ袋の容量は、発泡容器だとだいたい2〜3kgの重さがあります。しかし透明容器は一袋9kgくらいあるのです。重さにしてだいたい3〜4倍ですね。しかし逆に、1/3〜1/4のコストで同じ量の資源を回収できるとも言えるわけです。ですから透明容器のリサイクルはかねてから考えていました。

じつは透明容器は一見同じように見えても材質が5種類以上ありまして、それらの分別が困難だったため、回収しても再生が困難だったのです。しかし、いろいろと試行錯誤した結果、ある特殊な光線を当て樹脂特有の波長を読みとることで分別できることが分かりました。本社のある福山に作った試験ラインも順調に稼働しており、ようやく本格的な操業を目指すことができる状況になりました。

崎田

なるほど。これで透明な容器も、色つきの容器も、店頭回収してメーカーが直接再生できるようになるわけですね。せっかくなら東京のそばにも作っていただけると…。

小松

はい、東京にもすぐに作ります。試験運用では問題なく稼働していますので、東京、名古屋、大阪、福山にはすぐにラインを開設させることができますと思います。

ゆくゆくは、もうこのトレーでも、うち(の工場)に持ってきてくれれば、ちゃんと処理してあげられるような、容器包装リサイクル法にとらわれない、独自のリサイクルのルートを作り上げることができたらいいですね。

これからの課題についてお聞かせください。

崎田

ひとつは、市民一人ひとりがどれだけCO₂を出しているのかを自覚するために、メーカーは自分たちの製品がどれだけCO₂を出しているのかを伝えていただきたいと思います。また、さまざまな取り組みや、先ほどご説明いただいたトレーの意義などについて、企業として発信していくことが必要だと思います。せっかくの取り組みが、皆さんに知れないのはもったいないです。

小松

環境のためにがんばるトップランナーを、もっと国や政府が応援してほしいですね。内閣総理大臣賞や、愛地球賞、3R推進環境大臣賞をはじめとする、さまざまな賞をいただきましたが、「よくがんばりました」と拍手を頂くだけで終わるのでは、企業にとって味気ないと感じます。たとえば政府による経済的なインセンティブ等の制度設計など、がんばっている企業を応援してくれるような制度があれば、企業を主体とした環境活動がもっと盛り上がるのではないかと考えます。

崎田

そうですね。その「拍手の次を支える方法」として投資家や金融機関も関心を持っていただきたいです。NPOや市民団体の役割も重要だと思います。私も、企業の取り組みを共有できるよう、さまざまなフォーラムを何度も開催してきました。このような場を含め、社会全体でシステムとして、企業から発信された情報が市民に伝わる仕組みが形成されて、環境と経済が両立することが急務であると感じています。

小松

そうですね。

本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

崎田

ありがとうございました。

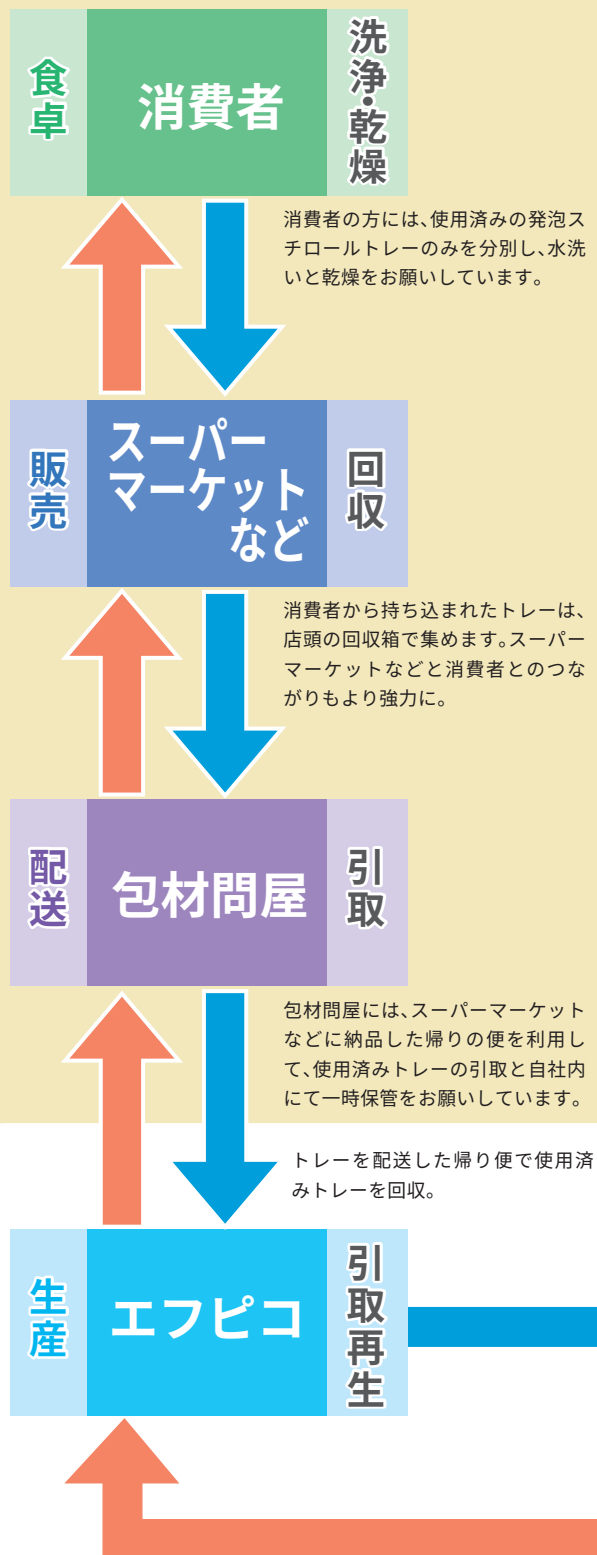


2008年3月6日
エフビコ関東リサイクル工場にて

エフピコのリサイクルプロセス

回収したトレーが再び「エコトレ®」に。

多くの人の環が大きな循環の輪を形づくっています。



発泡スチロールトレーリサイクル工程全景

発泡スチロール
トレー

選別

白・柄自動選別装置

再生できない種類のトレーなどを取り除き、白トレーとカラートレーに分類します。



搬入

回収されたトレーや容器は、各地区のリサイクル工場に。



エフピコの
リサイクル工場

透明容器

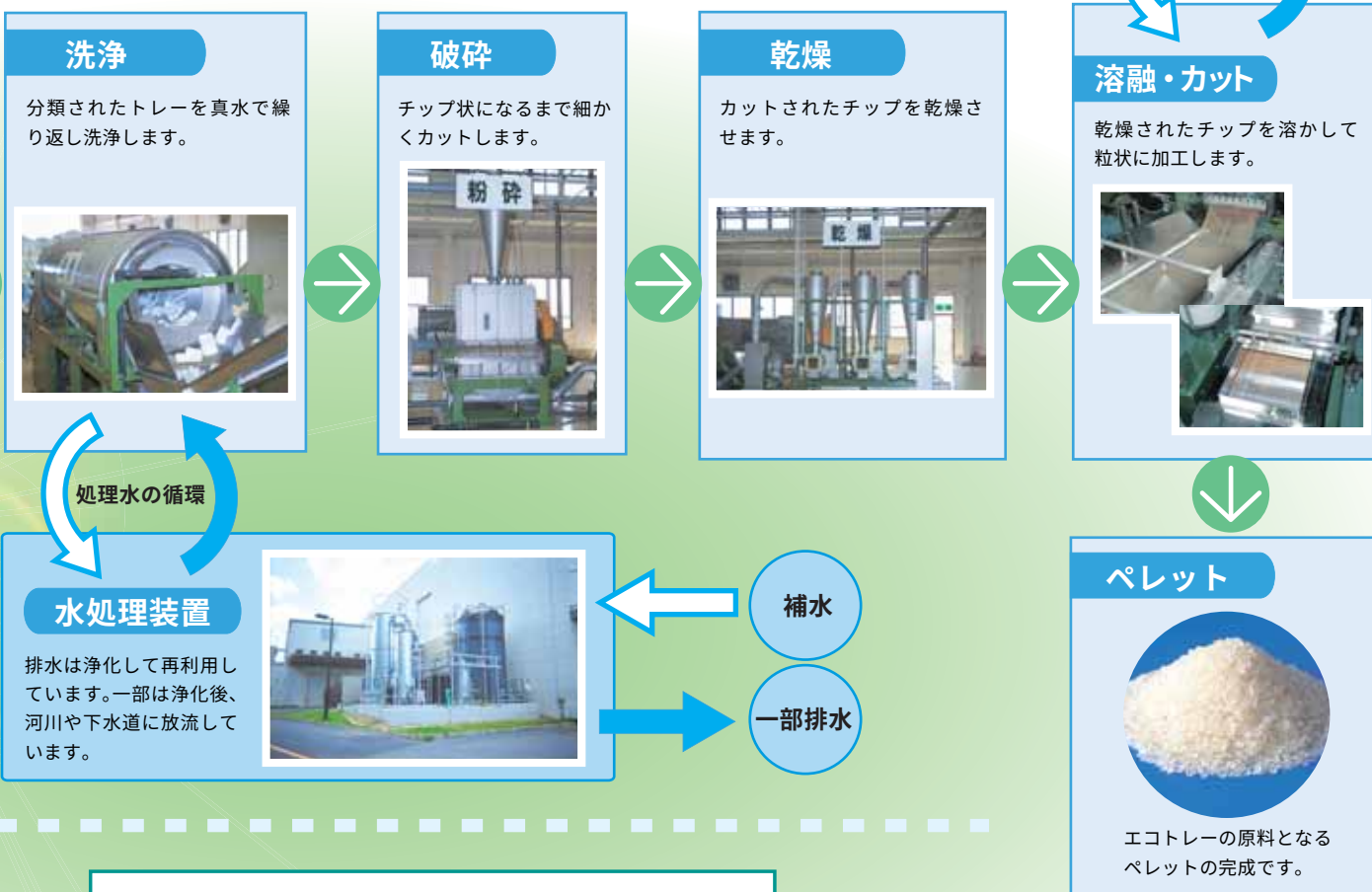
選別

光学自動素材選別装置





(関東リサイクル工場)



透明容器のリサイクル体制も 全国展開に向けて着々と進めています。

透明容器のリサイクルについては、数年前から実験的に回収を実施し、自動選別機器の研究を重ねてまいりましたが、昨年、近赤外線
の技術を応用することによって、異なる素材ごとに自動で選別する
ことに成功しました。

今後は関係部門を含め、ユーザー、消費者の皆様にご協力を仰ぎ
ながら、透明容器の回収量増加、ならびに高品質なリサイクル材料
の生産に力をいれる計画です。

エコトレイ®へ



取り組みの成果

エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」を開始して17年半が経過し、取り組みの成果は廃棄物の削減、資源の有効活用にとどまらず、社会的コスト及びCO₂排出量削減にまで深化しています。

廃棄物の削減

エフピコが2007年度に回収した使用済みトレーは全部で6,337トン。枚数に換算すると約15億8,425万枚にもなります。

これらのトレーを回収・再生したということは、それだけの廃棄物の排出を抑制したことになります。

いま、日本の各地で、廃棄物の最終処分場が不足し、大きな問題となっています。エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」は、これらの問題の解決に向けて、大きく貢献するものと自負しております。

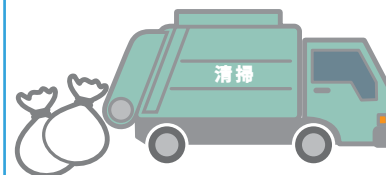
社会的なコスト削減にもつながります

ゴミを処分するにも、費用がかかります。量が増えれば増えるほど、その額が大きくなっていくのは当然です。トレー・リサイクルによって、廃棄物が減ることは、すなわちゴミ収集に伴う社会的なコストが節約できるということでもあるのです。

具体的な数字で見てみましょう。
1990年9月にエフピコがトレー・リサイクルを開始してから2008年3月で17年半が経過しました。この間に回収された発泡スチロールトレーは約179億5,875万枚／7万1,835トンとなります。これは東京ドームなら約11.8杯分、ゴミ収集車なら約129万台分にも相当します。自治体にもよりますが、ゴミ収集車1台分の廃棄物を収集、運搬するための費

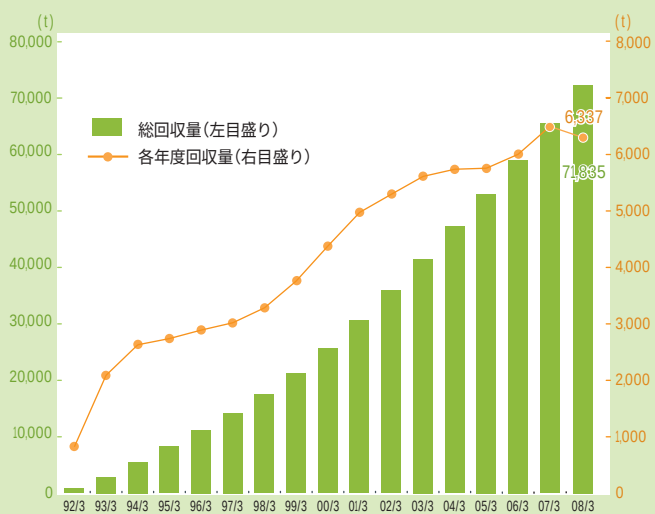
用は、約2万5000円。つまり、エフピコがリサイクルしてきたトレーを、ゴミとして処理しようとする、収集、運搬費用だけでも約323億円もの社会的コストがかかる計算になります。

こうして考えると、エフピコのトレー・リサイクルは単に環境のためだけでなく、行政のコスト削減にも効果があることが分かります。

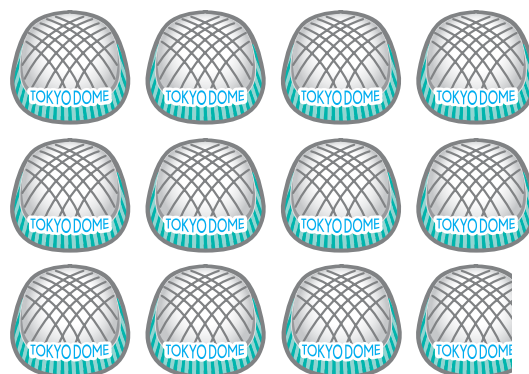


**ゴミ収集車 約129万台
約323億円の削減**

発泡スチロールトレーの回収量の推移



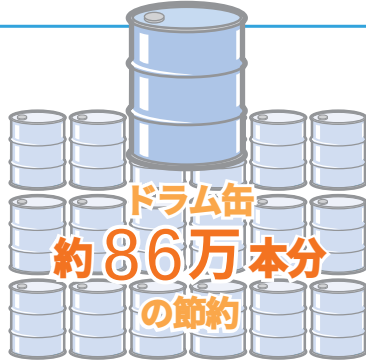
容積は東京ドーム 約11.8杯分に相当します



※東京ドームの容積は124立方メートル
※標準的なゴミ収集車（2トンクラス）の容積は、約4.6立方メートル。
トレーをぎっしり押し込むと1立方メートルに約3,000枚入るため、1台のゴミ収集車に約1万4,000枚入る計算になる。

資源の有効活用

エフピコ方式のリサイクルがはじまってから17年半の間に回収されたトレーを石油に換算すると、約1億7,240万リットル(ドラム缶約86万本分)にも及びます。



※発泡スチロールの原料となるポリスチレンを1,000kg作るには2,400%の石油が必要です。これをドラム缶(200%入り)で換算しました。

さらなるリサイクル効率の向上に向け体制を整えています

私たちエフピコが、2007年度に回収した使用済みトレーは、合計6,337トン。それに対し、全国6拠点に設けたリサイクル工場の処理能力は、年間約1万6,000トンです。エフピコのリサイクル能力には、まだまだ余裕があります。

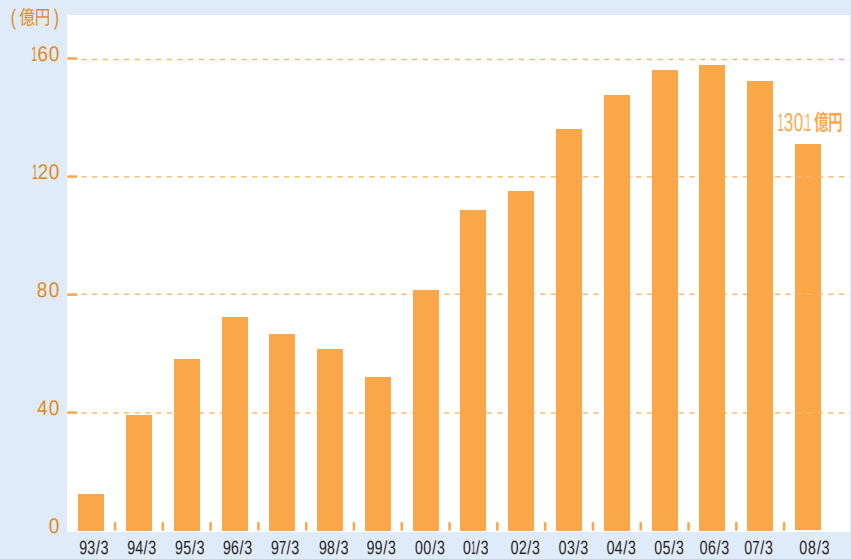
これからも、限りある資源を有効に活用するために、さらなるトレーリサイクルの実績向上・効率アップを目指してまいります。

CO₂の排出抑制

いま地球規模での環境問題で、もっとも深刻と言えるのが「地球温暖化」です。これは、CO₂の濃度が濃くなることで大気温度が上昇する「温室効果」が原因とされています。

トレーをリサイクルして再利用することは、本来焼却されるはずだった廃棄物を減らし、ひいては廃棄物焼却に伴って排出されるCO₂の量を抑制することにもつながります。

エコ製品の売上高の推移



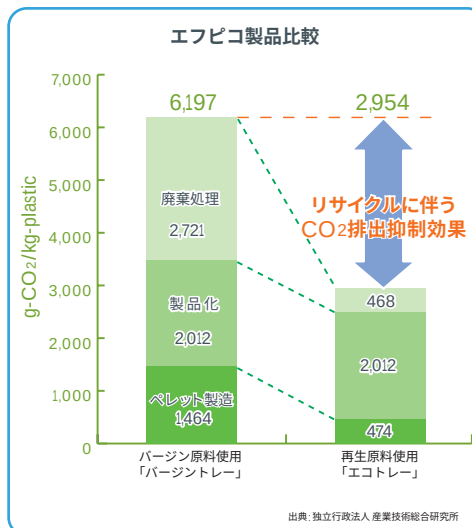
全国リサイクル工場と処理能力

工場名	所在地	担当地区	処理能力(月間)
北海道リサイクル工場	北海道石狩市	北海道	100 トン
東北リサイクル工場	宮城県黒川郡	北日本	160 トン
関東リサイクル工場	茨城県結城郡	関東	320 トン
中部リサイクル工場	岐阜県安八郡	中部	190 トン
福山リサイクル工場	広島県福山市	関西・中国・四国	400 トン
九州リサイクル工場	佐賀県神埼郡	九州	160 トン
合計			1,330 トン

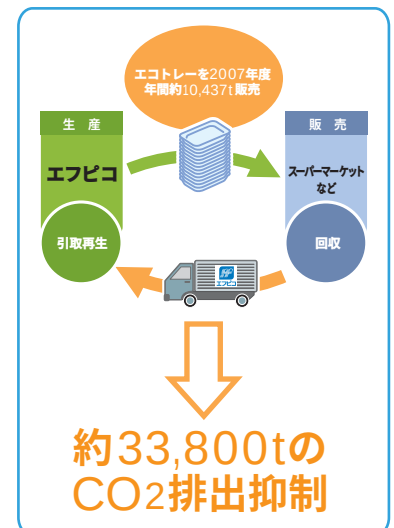
※処理能力については、各工場とも24時間稼働の場合。

1kg(約250枚)エコトレーを使うことで約3.24kgのCO₂排出抑制効果！

エコトレーを使うことで2007年度年間約33,800tのCO₂排出抑制効果！



出典: 独立行政法人産業技術総合研究所



※文中のトレー枚数は1枚4gで算出しています。

工場見学を積極的に受け入れています

全国6ヶ所のリサイクル工場のうち5ヶ所には、毎年、小中学生・高校生・大学生の教育機関や消費者団体をはじめ、スーパーマーケット、包材問屋、自治体、マスコミ、金融機関、海外からの視察など、多数の方が見学にいらっしゃいます。2008年3月までの見学者の累計は約26万人にのぼっています。

トレーtoトレーのリサイクルを知っていただくために

資源の大切さと環境保全の重要性を学んでもらうために。私たちエフピコでは、工場見学を積極的に受け入れています。

全国のリサイクル工場には、工程を一望できる見学コースやレクチャールームを設け、担当社員が、トレーのリサイクルを通して資源の有効活用と環境保全の重要性を説明しています。見学コースには、リサイクルによって生まれた製品を展示し、「ゴミ」から「資源」へ、そして「製品」へと生まれ変わる過程を理解いただけるよう配慮しています。

また、学校や地域コミュニティ等を会場としたトレーリサイクルの出前講座の要請にも応じています。



工場見学に来られた各地の小学生からたくさんのお手紙が届いています。



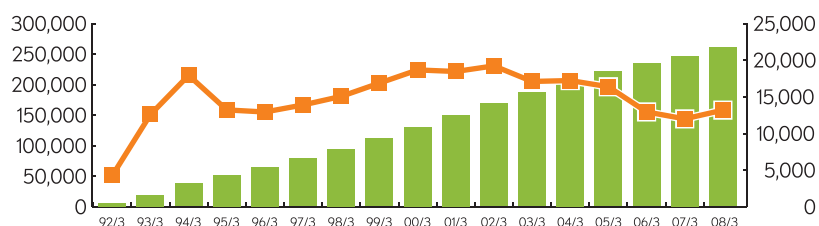
関東リサイクル工場



福山リサイクル工場

見学者数の推移

■ 見学者累計(左目盛り) ■ 単年度の見学者数(右目盛り)



見学担当者から



環境対策室
馬屋原 慧准

主に一般消費者の方々を対象とした見学会を担当しています。

説明した後の感想で、「これから回収に協力します」「応援しているので今後もがんばって」などのお言葉をいただくと、努力が報われた気がしてとても嬉しいです。

2008年度は透明容器のリサイクルも本格稼働します。当社のリサイクルをさらに普及させるチャンスとなると思いますので、今まで以上に積極的にコミュニケーションを行い啓発活動に努めてまいります。

工場見学のご希望は、各工場にお問い合わせください。

■ 見学受付日時：月～金（祝日を除く）9：00～16：00(各工場共通)

工場名	住所	見学受付	1団体あたり 最大受入人数
東北リサイクル工場	〒981-3601 おおひら 宮城県黒川郡大衡村字平場23-124	管理課 022-345-1146	40名
関東リサイクル工場	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	東京本社秘書室 03-5325-7300	120名
中部リサイクル工場	〒503-0205 しもおおくれ 岐阜県安八郡輪之内町下大樽157-1	管理課 0584-69-2985	120名
福山リサイクル工場	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	本社秘書室 084-953-0001	130名
九州リサイクル工場	〒842-0102 いしなり 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動1800-1	管理課 0952-52-7877	50名

機能性・安全性・環境性がコンセプトの 本社新社屋が落成(広島県福山市)

創業45周年記念事業として建設を進めていた本社新社屋が完成し、2007年12月17日より業務を開始しました。この新社屋は地上3階建て、延べ床面積は約5257平方メートル。機能性・安全性・環境性をコンセプトに設計されています。

営業・管理・システム・生産・開発・物流部門をワンフロアに集約して、各部門の連携強化と業務効率化を図ったほか、24時間体制で監視できる入退出管理システムを導入しセキュリティ性も高めています。

また、環境面の配慮として、太陽光発電システムの採用や、ヒートアイランド現象の防止に効果が期待される「屋上緑化」も行いました。屋上の緑化スペースには開放感のあるウッドデッキを設けています。



本社新社屋外観

太陽光発電システム

オフィス

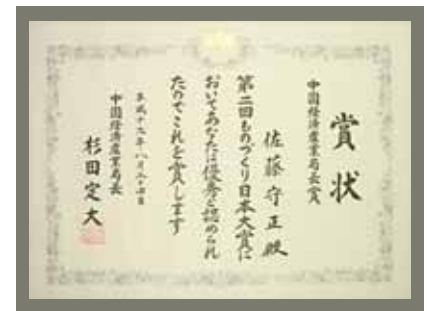
第二回ものづくり日本大賞 中国経済産業局長賞 受賞

日本の文化や産業を支えてきた「ものづくり」の最前線で活躍する人や企業を顕彰することを目的に、経済産業省、国土交通省、厚生労働省、文部科学省などが2年に一度選定している「日本ものづくり大賞」。

その第二回選考において、当社の佐藤副社長をリーダーとする7名が、中国ブロック経済産業局長賞を受賞いたしました。

受賞テーマは「使用済みトレーの回収・リサイクルシステムの開発と実用化」で、納品帰りのトラックで使用済みトレーを回収するというアイデアや、元の姿に戻す高度な再商品化プロセスの構築などが評価されました。

表彰式は2007年8月24日、八丁堀シャンテ(広島市)にて行われました。



「ものづくり大賞」の賞状

若林前環境大臣 リサイクル工場を視察



リデュース(省資源)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の、いわゆる「3R」を推進するために、環境省が平成18年に創設した表彰制度「容器包装3R推進 環境大臣賞」の第1回の選考において、エフピコが製品部門の最優秀賞に選ばれました。主力製品である「エコトレ」の製造において消費者との連携を進めながら経済性とリサイクル性を両立させたことが、評価されたものです。

また今回の受賞を受け、2007年7月13日には若林前環境大臣が福山リサイクル工場を視察されました。視察終了後「石油を節約する取組みに驚くとともに頭が下がる。工場を見学することが、大事な環境教育になる。」とのご感想をいただきました。



授賞式での若林前環境大臣と佐藤副社長(写真上)

小松社長の案内で熱心に見学される
若林前環境大臣(写真右)

「3R推進マイスター」に 当社社員が委嘱される

「容器包装リサイクル法」の改正に伴い、循環型社会形成推進基本法の基本となる「3R」を容器包装の分野で推進していくため、国民に大きな影響力を持つ知名度の高い有識者を環境大臣が選出し、推進員の任を委嘱する「容器包装廃棄物推進員」制度、愛称「3R推進マイスター」の一人に、当社環境対策室の松尾和則が選ばれました。

今後、広く一般市民及び消費者団体等に、エフピコのトレーリサイクルを軸に3R推進のための活動を展開してまいります。



3R推進マイスターに選ばれた松尾和則

経営スローガン・会社概要

私たちエフピコは、顧客第一主義の経営方針のもと、『環境・安全・安心・健康』を追求しています。

人にとって、もっとも大切なフィールドの一つである食生活の中で、

お客さまの立場に立った製品づくりやサービスの提供を目指しています。

経営スローガン

**人と人、人と自然、
企業と社会をつなぐ企業であるために。**

多彩な食品トレーで華やかな食卓を演出し、コミュニケーションを円滑にすること。使用済みトレーのリサイクル体制を整え、自然環境への負荷を抑えること。食品容器という製品を通じて「食」ビジネスを支援し、安全・安心・環境保全といった社会のニーズに応えること。

エフピコは、これらの課題を高いレベルで実現するために、スローガンを経営の基本方針として位置づけ、それに基づいた経営を行っています。人の暮らしの根幹を支える、「食」に関わるメーカーとして、安全であることはもちろん、環境負荷の低い製品をお届けできるよう、日々改善を続けています。

企業プロフィール

- 商 号 株式会社エフピコ
- 設 立 1962年(昭和37年)7月
- 代 表 者 代表取締役社長 小松 安弘
- 資 本 金 13,150百万円
- 従業員数 636名(エフピコグループ: 2,695名)
- 事業内容
ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売
- 本 社
〒721-8607
広島県福山市曙町一丁目12番15号
TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
- 東京本社
〒163-6036
東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
新宿オークタワー(総合受付36階)
TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811

ネットワーク

● 営業拠点

大阪支店・札幌営業所・仙台営業所
名古屋営業所・静岡営業所・新潟営業所
北陸営業所・広島営業所・高松営業所
福岡営業所

● 工 場

北海道工場 (北海道石狩市)
東北工場 (宮城県黒川郡)
山形工場 (山形県寒河江市)
関東工場 (茨城県結城郡)
関東下館工場(茨城県筑西市)
中部工場 (岐阜県安八郡)
近畿亀岡工場(京都府亀岡市)
福山工場 (広島県福山市)
笠岡工場 (岡山県笠岡市)
神辺工場 (広島県福山市)
九州工場 (佐賀県神埼郡)
四国工場 (高知県南国市)

● リサイクル工場

北海道リサイクル工場(北海道石狩市)
東北リサイクル工場(宮城県黒川郡)
関東リサイクル工場(茨城県結城郡)
中部リサイクル工場(岐阜県安八郡)
福山リサイクル工場(広島県福山市)
九州リサイクル工場(佐賀県神埼郡)

● 配送センター

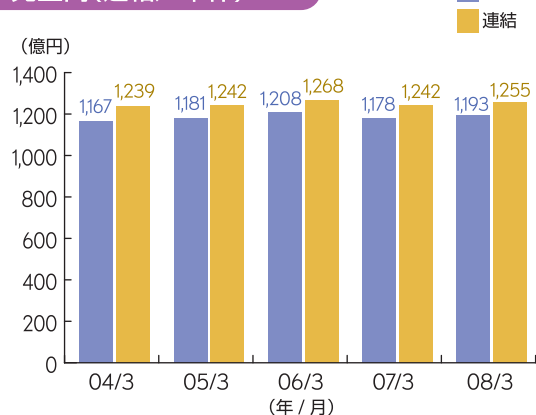
北海道配送センター(北海道石狩市)
東北配送センター(山形県寒河江市)
東日本ハブセンター(茨城県結城郡)
東京配送センター(千葉県船橋市)
中部配送センター(岐阜県安八郡)
関西配送センター(兵庫県西宮市)
福山配送センター(広島県福山市)
九州配送センター(佐賀県神埼郡)



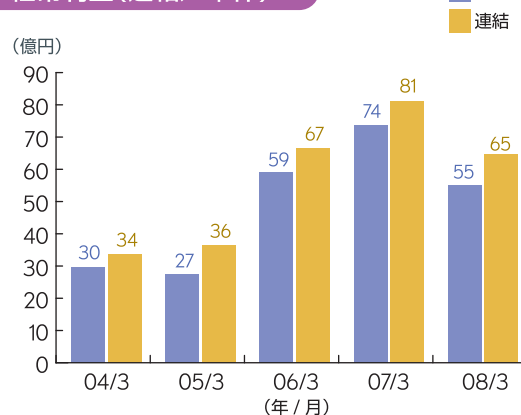
主要な経営指標

私たちエフピコは、企業価値の向上を目指し、
効率的かつ継続的な成長を達成するための経営を推進しています。

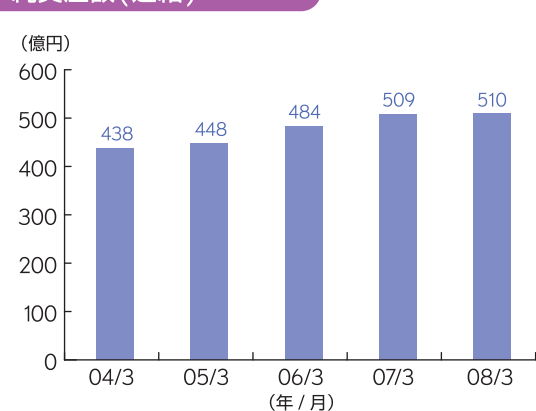
売上高(連結／単体)



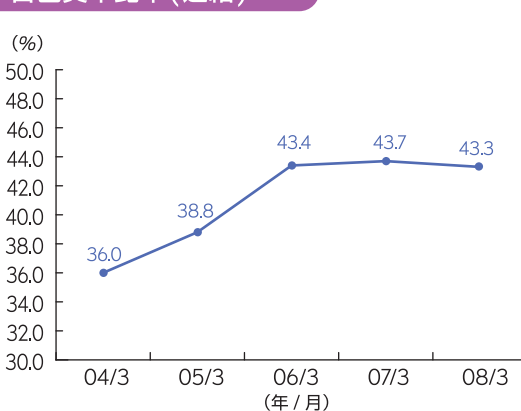
経常利益(連結／単体)



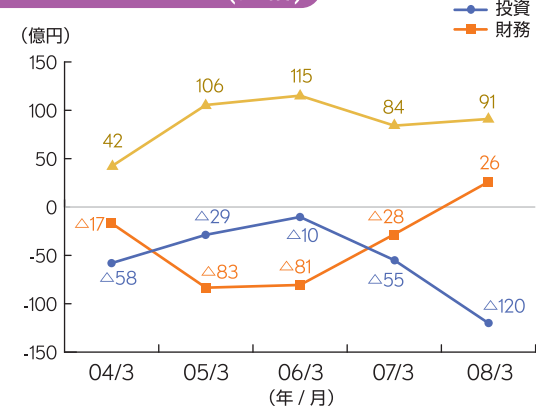
純資産額(連結)



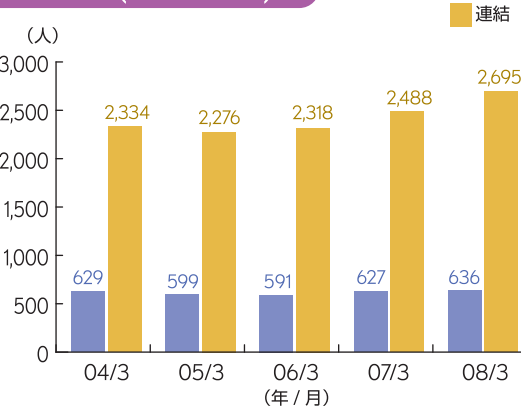
自己資本比率(連結)



キャッシュフロー(連結)



従業員数(連結／単体)



コーポレートガバナンス

企業は株主だけでなく、社会を含めたすべてのステークホルダーのもの。
私たちエフピコはそう考えます。私たちを取り巻くさまざまな立場の方から
信頼していただける企業となるために、内部体制の整備を進めています。

エフピコの コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスとは、経営者が社会や株主を含むさまざまな利害関係者に十分に配慮した企業経営を行っているかどうかを、企業自らが監視する仕組みのことを指します。

当社ではそのような認識に基づき、コーポレート・ガバナンスの基本方針として経営戦略に関する「意志決定の迅速化」と「経営の効率化」、「透明性の確保」を掲げています。

株主・投資家、消費者・顧客、債権者・取引先等の利害関係者から信頼を得るとともに、良き企業市民として社会から受け入れられる企業であるために、当社では企業活動に関するさまざまな情報の、積極的な開示に努めています。

取締役会・監査役会について

私たちエフピコは「監査役会制度」を採用しており、法令に基づき取締役会及び監査役会を設置しています。

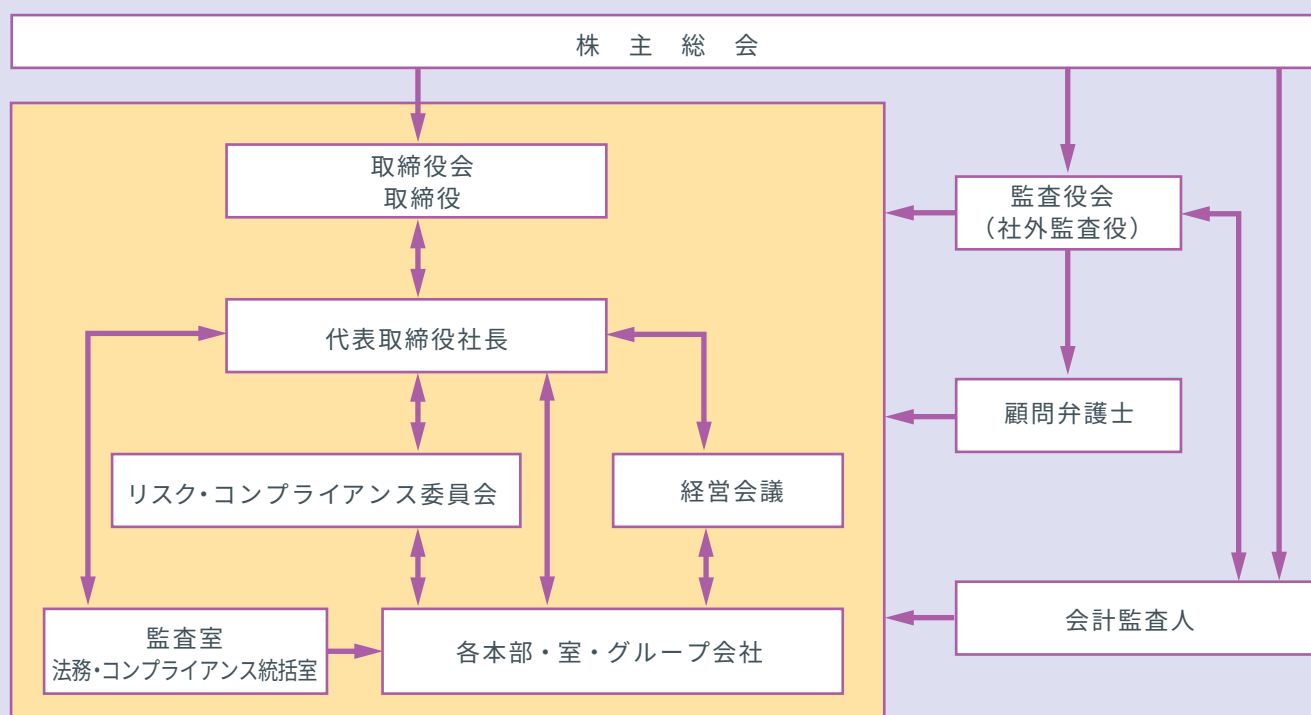
取締役会については、経営の透明性を確保するため、毎月、定例取締役会を開催しているほか、必要に応じて臨時の取締役会を開催することで、意志決定の迅速化を図っています。また、上記の会議のほかに経営会議等を開催することで、経営上の課題について、さまざまな角度から十分に議論できる体制としています。

監査役会については、常勤監査役4名で構成されていますが、そのうち2名は、監査の公平性を高めるため社外監査役としています。監査役は取締役会や、その他の重要会議に出席し、経営について

のモニタリングに携わっています。

監査役は、監査上の重要事項について説明を求め、会計監査人と定期的な会合を持つ事としております。また、監査役は内部の監査部門と緊密な連携を保ち、効率的な監査を実施するよう努めており、内部監査部門とも定期的な会合を持つ事としております。

コーポレートガバナンス体制図



J-SOX への取り組み

2006年6月に成立した「金融商品取引法 内部統制報告制度(J-SOX)」において、上場企業等を対象にした「財務報告に係る内部統制の有効性に関する経営者による評価と公認会計士等による監査」が、2008年4月1日以降に開始する事業年度から義務化されました。

当社も適切な内部統制システムの構築・運用は重要課題の一つであると認識しており、2007年7月より社内に「内部統制プロジェクト」を発足させ、準備を進めてまいりました。同プロジェクトは経営戦略本部、経理財務本部、総務人事本部のメンバーに加え、アドバイザーとして参加する外部コンサルタントで構成されています。

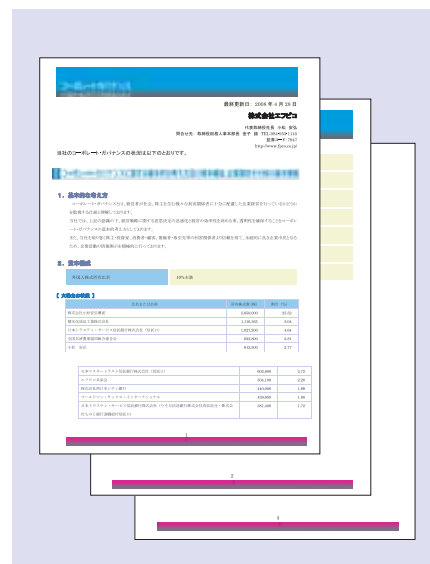
金融商品取引法の求める内部統制報告制度への対応や、内部統制の構築・評価を通じた業務効率の改善を目的に活

動を続けた結果、文書化の全社展開を計画通りに完了することができました。2008年4月からは運用テスト(運用状況の有効性評価)の実施フェーズに入っております。

「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」の提出

2005年より東京証券取引所のホームページ上で開示している「コーポレート・ガバナンスに関する報告書(以下、ガバナンス報告書)」の内容を、一部変更いたしました。

今回の変更は、2008年2月に東京証券取引所の有価証券上場規程等の一部が改正(記載事項の追加)されたことを受け、当社においても「内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況」の中に「反社会的勢力排除に向けて基本的な考え方及びその整備状況について」の項目を追加いたしました。



内部統制システムに関する基本的な考え方(抜粋)

取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制と損失の危険の管理に関する規程その他の体制は、以下の通りとする。

(1) コンプライアンス、リスク管理に関する体制

① コンプライアンス、リスク管理に関する体制

コンプライアンス、リスク管理に関する体制は、既に設置されているリスク・コンプライアンス委員会をもってこれにあたる。また、公益通報者保護法の施行を受け、法令違反行為等が発生した場合の対応として、内部通報制度を整備し、役員及び社員に対してその周知を図るものとする。

② コンプライアンス、リスク管理に関する規程

役員及び社員が、高い倫理観と社会的良識を持ち、コンプライアンス精神の浸透を図る目的に制定した「エフピコ行動憲章」、「エフピココンプライアンス行動規範」を会社法に則り、再度役員及び社員に対して周知を図るものとする。

(2) モニタリング体制

業務執行部門とは独立した社長直轄の監査室による内部監査を実施し、業務執行部門のリスク管理状況、コンプライアンス状況も含めモニタリングを行う。

(3) 情報開示統制

法定開示及び適時開示に関する情報は、社長室に情報集約し、関係部門と協議の上、開示の必要性要否の判断を行う。

(4) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方は、「エフピコ行動憲章」、「エフピココンプライアンス行動規範」で定め、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは関係を持たず、不当・不法な要求には一切応じないものとする。

反社会的勢力に対する対応は、総務部が総括し必要に応じて警察等の外部専門機関と連携して対処する。

コンプライアンスとリスク管理

「食」に携わる企業として、あるいはお客さまに笑顔をお届けする企業として、法令やモラルを順守し、各種のリスクに備えることは大切なことです。

私たちエフピコは、企業活動を自ら管理する体制を整え、厳しく律してまいります。

コンプライアンスとリスク管理について

エフピコでは、コンプライアンスの徹底とリスク管理を「会社を守る両輪」と位置づけており、2004年にはこれらの活動を全社的に行う「リスク・コンプライアンス委員会」を設置いたしました。本社及びグループ各社の社員、委員会などからさまざまな問題点などを収集・発表することで、グループ全体におけるリスクに関する情報共有において大きな役割を果たしています。コンプライアンス及びリスク管理の重要性がますます増大していく現状を踏まえ、今後もグループ全体におけるコンプライアンス活動・リスク管理活動の促進を図ってまいります。

コンプライアンスの浸透活動

1 コンプライアンス室を新設

社員一人ひとりに、コンプライアンス意識をよりいっそう浸透させることを目的として、2007年9月に専従の部署となる「法務・コンプライアンス統括室」を設置し、コンプライアンス実施体制の強化を図りました。

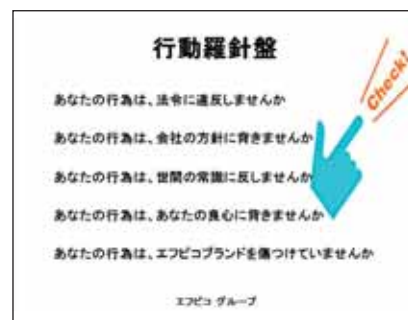
2 新入社員研修において講義を実施

2008年4月に行われた新入社員の研修会において、エフピココンプライアンス行動規範を用いて、コンプライアンスの重要性について説明を行いました。来年度以降も、新入社員研修における講義を継続して行い、早期からのコンプライアンス意識の醸成に努めてまいります。

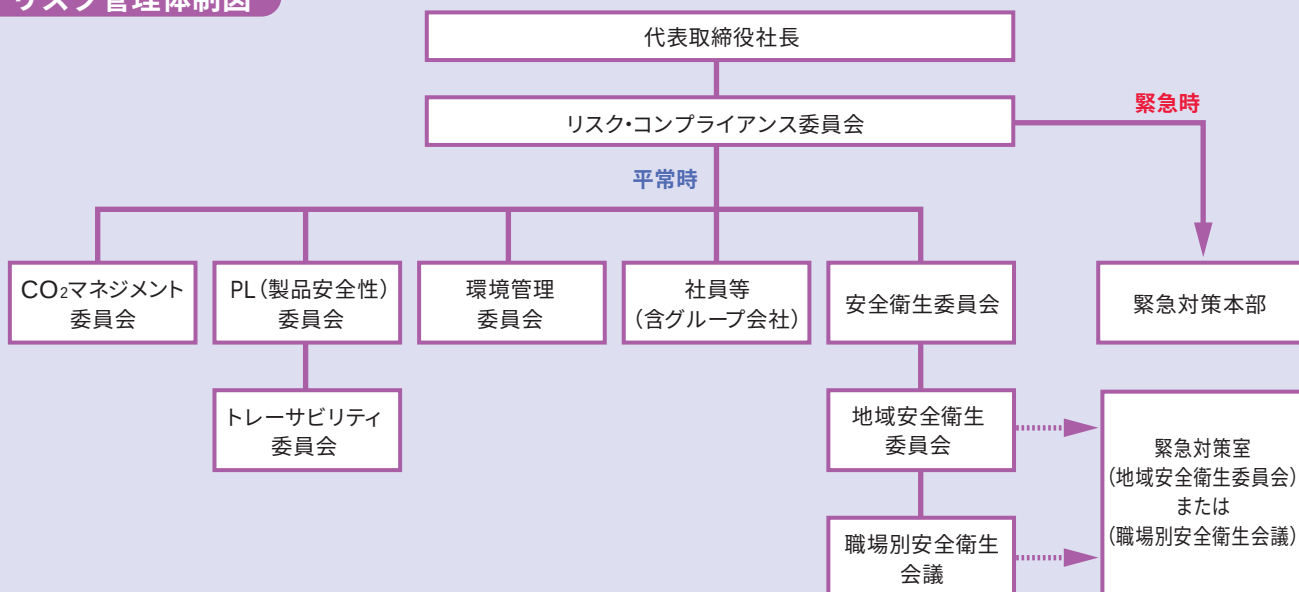
3 「行動羅針盤」の活用

エフピコでは、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め、エフピコの社員として責任ある言動を心がけることができるよう、行動のための指針である「行動羅針盤」を定め、社内に周知徹底しています。

また、この「行動羅針盤」は来客が訪れる受付や打ち合わせスペースにも掲示し、社外の方に対して当社のコンプライアンスへの取り組みを宣言しています。



リスク管理体制図



リスク管理

エフピコではリスク管理を、平常時の通常業務に於ける「リスク管理」と、危機的事態が発生した場合の対応である「危機管理」の2種類に分けています。

「リスク管理」とはリスクの発生を未然に防止し、顕在化することのないよう継続的に行われる活動を指しています。各部門においては、日頃からリスク管理規定に従って適切に管理を実施しています。

「危機管理」は、リスク事象が顕在化したときにその被害や影響が拡大しないよう、早期終結と再発防止を目的に行う緊急時の時限的対応を指しています。関連部署では、平常時から発生するリスクを想定し、緊急時の対応マニュアル作成などを行って、万一の事態に備えています。

リスク・コンプライアンス委員会の活動

2007年度におけるリスク・コンプライアンス委員会の活動は、環境に関するリスクをマネジメントする「環境管理委員会」、環境負荷の低減に取り組む「環境経営5カ年計画」の実現をリードする「CO₂マネジメント委員会」や職場の安全衛生やリスク管理に取り組

む「安全衛生委員会」及びその下部組織と連携して、下記取り組みを実施してきました。

第46期の取り組み

- 1 各部門のリスク管理状況に関する情報を収集し、全社的に共有できるよう体制整備を進めました。
- 2 委員会の発行する「事務局通信」を通じて、コンプライアンスやリスクに関する情報の共有を図りました。
- 3 安全衛生委員会及びその下部組織では、リスクの発生を未然に防止するため、活動を強化しました。
- 4 著作権法や不正競争防止法など、業務に関連する法令等の勉強会を実施しました。

エフピコ行動憲章

株式会社エフピコの役員並びに社員は、当社の経営理念に基づき、法令、協定及び社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

- 1 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
- 2 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
- 3 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
- 4 すべての事業活動において、公正・透明・自由な競争を行う。
- 5 株主や当社製品の利用者と広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
- 6 社員の人権と個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境を実現する。
- 7 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
- 8 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
- 9 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
- 10 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
- 11 役員は、本憲章の精神と自己の役割を理解し、率先垂範のうえ、社員、グループ企業並びに取引先へ周知するとともに、社内体制の整備と見直しを積極的に行う。
- 12 本憲章に反するような事態が発生したときは、会社の責任において、役員・社員一体となり問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。また、関係者の権限と責任を明確にしたうえで、厳正な処分を行う。

環境方針

私たちエフピコは、自らの事業活動による環境負荷を低減することでこの美しい自然を次の世代へと引き継いでいくことができるよう、環境方針にもとづき、目的、目標を定め、全社を挙げてその順守につとめています。

お客さまとともに歩む 企業であるために

エフピコは、現在の自然環境をより美しい状態で次の世代へと引き渡すことを目指し、1998年8月に環境方針を定め、その後毎年見直しを重ね、その実行を社内外に発表しています。

環境問題がクローズアップされる毎に、資源浪費の筆頭にあげられがちな食品容器ですが、食品容器がなければ現在のさまざまな食品の流通が成り立たないのもまた事実です。より多くのトレーを再生利用できるように「エコトレー」の利用拡大、また、エフピコ方式による「トレー to トレー」を積極的に推進し、さらなる省エネルギー・省資源・環境負荷低減の実現を目指し、これからも研究開発を続けてまいります。

環境方針

基本理念

当社は地球環境の保全が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

方針

- 1 CO₂削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化につとめると共に、一般家庭から排出される使用済み容器を再生利用する『エフピコ方式』のリサイクル事業を積極的に推進する。
- 2 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、及び当社で同意するその他の要求事項を順守すると共に、著しい環境側面に対し自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 3 環境側面を考慮して環境目的及び環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査及び最高経営層による見直しを実施し、継続的改善を行う。
- 4 この方針は、環境マネジメントシステムを確立し、実行し、維持する。
- 5 この方針は、文書化し、全従業員及びエフピコ敷地内契約者にも周知徹底する。
- 6 この方針は、パンフレット、インターネットを通じ一般の人にも開示する。

株式会社エフピコ 代表取締役社長

小松安弘

2007年4月19日

環境マネジメント体制

環境負荷低減の取り組みをより効果的・効率的に、また適切に行うために。

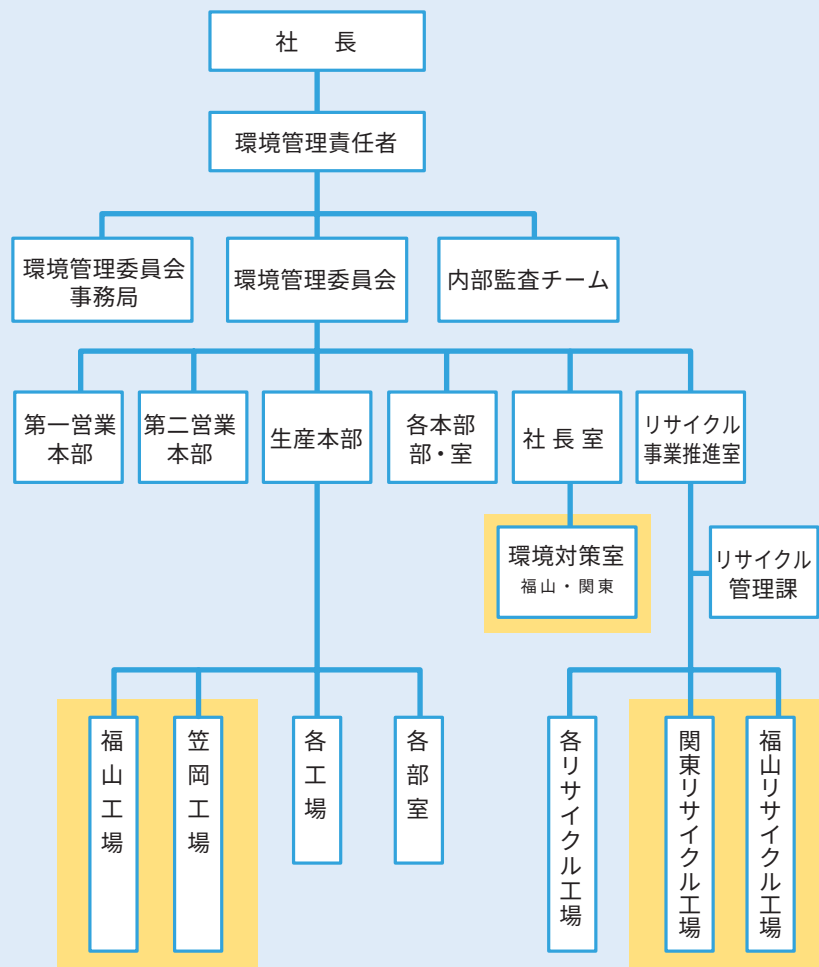
私たちエフピコでは、社長を最高責任者とした環境マネジメント体制を組織し、システム運用を確実にするため、全社を挙げた環境負荷低減と保全対策に取り組んでいます。

環境負荷をコントロールする体制を整えています

エフピコは、環境負荷低減への取り組みに全社を挙げて取り組んでいます。また、その取り組みを効果的に行うとともに、継続的なものとして社内に根付かせていくために、社内の取り組みをリードする「環境管理委員会」を組織。環境マネジメントシステムの継続的改善に向けて、全社的な活動を続けています。

環境マネジメント体制

ISO14001認証取得サイト



VOICE

現場の声をききました。



環境管理委員会 事務局
黒坂 瑠美

ISO14001の認証継続に向けて努力を続けています。

当社がISO14001規格の認証を取得してから2008年で10年目となります。導入当初から今日まで、製造現場の担当者も、主導する事務局も、さまざまな試行錯誤を繰り返しながら、必死に取り組んできました。

年に2回行われる外部審査では、以前は審査員からの質問に緊張のあまり固まってしまう現場担当者が続出し、ヒヤッとすることもありましたが、今では的確な対

応ができるようになり、全員が積極的に審査に臨んでいます。本年2月には、3年毎に認証継続を評価する「再認証審査」が行われましたが、大きな問題もなく、無事に認証の継続が認められました。

これからも環境負荷を軽減すると共に、限りある資源の有効活用を実践し、最大限の環境保全活動を進めていきたいと考えています。

環境経営5ヵ年計画の進捗状況

私たちエフピコの活動が自然環境に与える影響は、残念ながら良いものばかりではありません。

私たちは、自らの活動が自然環境に負荷を与えていることを正しく認識するとともに、

自ら目標を定め、環境負荷低減のための取り組みを立案・実行しています。

環境面における取り組み

テーマ		取り組み方法		目標（達成年2010年度）
1. 地球温暖化防止	①エネルギー及び資源の削減 （INPUT）	温室効果ガス 排出量削減	製造部門	エネルギー原単位30%削減(原単位：Wh／枚)
			運輸部門	燃料消費量原単位40%削減（原単位：L／1000枚）※1
			オフィス部門	電気使用量20%削減／室温調整：夏25～28℃ 冬20～23℃
		京都メカニズムへの取り組み		京都メカニズム活用方法検討（CDM, JI, 国内排出権取引）
		新エネルギーへの取り組み		新エネルギー導入検討
		製品の省資源化		資源使用量原単位15%削減 ^{注1)} (原単位：投入資源重量／枚(ウッド製品除く))
		エフピコ方式の拡大		KHCW(回収白ペレット)：25%増、エコレー販売重量(エコKT反：15%増)
	②廃棄物・環境汚染物質削減 （OUTPUT）	環境汚染物質類	大気汚染管理(SO _x 、NO _x)	ボイラー／SO _x 、NO _x の現状排出レベル(法規制値以下)の維持 ※2 発電機／1基当たりのSO _x 排出量、NO _x 排出量は導入時の排出測定値を維持
			水質汚染管理(COD、BOD)	リサイクル5工場のCOD、BODの現状排出レベル(法規制値以下)の維持
			化学物質管理(PRTR、VOC)	PRTR：対象物質の項目及び量の把握 ※3 VOC：法規制には該当しないが自主規制で30%削減
		廃棄物類	廃棄物類 オフィスの 3R推進	紙使用量55%削減 ※4
				事業系廃棄物10%削減
				リサイクル率80%以上へ
			工場の3R推進	ゼロエミッション：産業廃棄物総発生量20%削減 ※5
		産業廃棄物の削減・管理		最終処分量(単純焼却、埋立て)／総発生量＝5%以下
2. 製品の環境負荷低減の研究開発		新技術開発		軽量化・薄肉化実現に向けた生産技術の研究・開発
		環境負荷の少ない製品設計		軽量化、単一素材化、非発泡→発泡体への変更の研究・開発
		新素材開発		バイオマスプラスチック(PLA等)の研究開発等
3. グリーン購入		グリーン購入指針作成		グリーン購入率60%
		低公害車		低燃費車100台導入／ガソリン燃費効率アップ
4. 環境に対する社員の意識向上		環境マネジメント		ISO14001のEMS手法に沿った活動
		環境教育		環境教育：2回／年
		社会貢献		継続実施
		社内広報活動		継続実施
5. 環境・社会活動情報のステークホルダーとの共有化		コミュニケーションの強化		ステークホルダー別環境情報の発信と共有化

2010年度目標数値変更

※1 燃料消費量原単位 30% → 40%削減

※2 焼却炉/SO_x総排出量、NO_x総排出量: 50%削減 → ボイラー/SO_x、NO_xの現状排出レベル(法規制値以下)の維持
(2008年度初期より焼却炉を休止し、ボイラーのみが対象となるため目標変更)

※3 PRTR: 対象物質(DXNs)の30%削減 → 対象物質の項目及び量の把握
(焼却炉休止に伴い、DXNsの排出がなくなるため目標変更)

※4 紙使用量 40% → 55%削減

※5 産業廃棄物総発生量 10% → 20%削減

基準年度変更

※6 2006 → 2007

注1) 2008年度の目標より低いのはPET容器の需要増を見込むため、一枚あたりの投入原料重量が増加すると予想する。

注2) 古紙問題の関係から、基準が変更されればその時点で再評価し目標を変更する。

「評価」欄 凡例

◎＝目標を上回る成果

○＝ほぼ目標通り達成（達成率90～110％）

×＝目標未達

基準年度	2007年度目標	2007年度成果	評価	2008年度目標(基準年度比)	関連項目
2003	25%削減	22.8%削減	○	25%削減	P35
2004	25.5%削減	28.2%削減	◎	37%削減	P37
2004	17%削減	17.5%削減	◎	18%削減	P39
	継続実施	継続実施	○	継続実施	—
	継続実施	中部工場屋上緑化 本社太陽光発電、屋上緑化	○	継続実施	—
2003	12%削減	16%削減	◎	18%削減	P33
2004	KHCW:13%増 エコKT反:2%増	KHCW:0.6%UP エコKT反:21%減	×	KHCW:20%増、KT反:5%減まで増	P15
2005	SOx20%削減 NOx10%削減	SOx3.42倍増 NOx4%増	×	法規制値以下を維持	—
設置年	休止に伴い目標削除	休止中	—	休止に伴い目標削除	—
	法規制値以下を維持	法規制値以下を確認	◎	法規制値以下を維持	P29
	23%削減	17%削減	○	アイテム数・量の把握	P29
2000	VOC7.5%削減、インキ水性化15%	VOC5%削減、インキ水性化5%	×	VOC8%削減、インキ水性化10%	—
2004	37%削減	51%削減	◎	52%削減	P39
2007※6	3%削減	54%増	×	3%削減	P39
	50%	63%	◎	70%以上へ	P39
2004	9%UPまで削減	12.5%削減	◎	16%削減	P36
2004	10%以下	10%	○	10%以下	P36
	継続実施	990アイテムの軽量化	○	継続実施	P33
	継続実施	15アイテムの発泡体切り替え	○	継続実施	P33
	継続実施	継続実施	○	継続実施	—
	50%以上	55%	◎	57%以上 注2)	P39
	5台導入（期末47台）	27台導入（期末69台）	◎	11台導入（期末80台）	P40
	継続実施	継続実施	○	継続実施	P26
	継続実施	4月に1回目実施	○	継続実施	P39・45
	継続実施	継続実施	○	継続実施	P47
	継続実施	継続実施	○	継続実施	P39・45
	継続実施	継続実施	○	継続実施	P17・41・43

2007年度の進捗状況および成果について

2007年度の各部門の目標達成の度合いについては、おおむね最終年度である2010年度に向けて、順調に進んでいると評価できるものでした。特にオフィス部門においては社員の意識向上がみられ、総量ベースでの廃棄物削減を達成することができました。製造部門における「電力の削減」については、2007年度の目標を達成することができませんでした。これは新工場の稼働開始により、わずかではあります効率の悪化が見られたためと考えております。

2008年度の目標と取り組みについて

5カ年計画の2年目となる2007年度は、それぞれの項目について、より正確なデータ管理を実施すべく、各部門担当者との連携を密にし評価を実施いたしました。一部の項目については目標の内容や集計定義の不備などが発生しました。より正確なデータ収集・分析のために、それぞれの項目において定義の再検討を実施し、より実態に即した内容へと整備してまいります。

物質の流れ

企業活動に伴い、さまざまな物質の移動や、環境への影響が発生します。

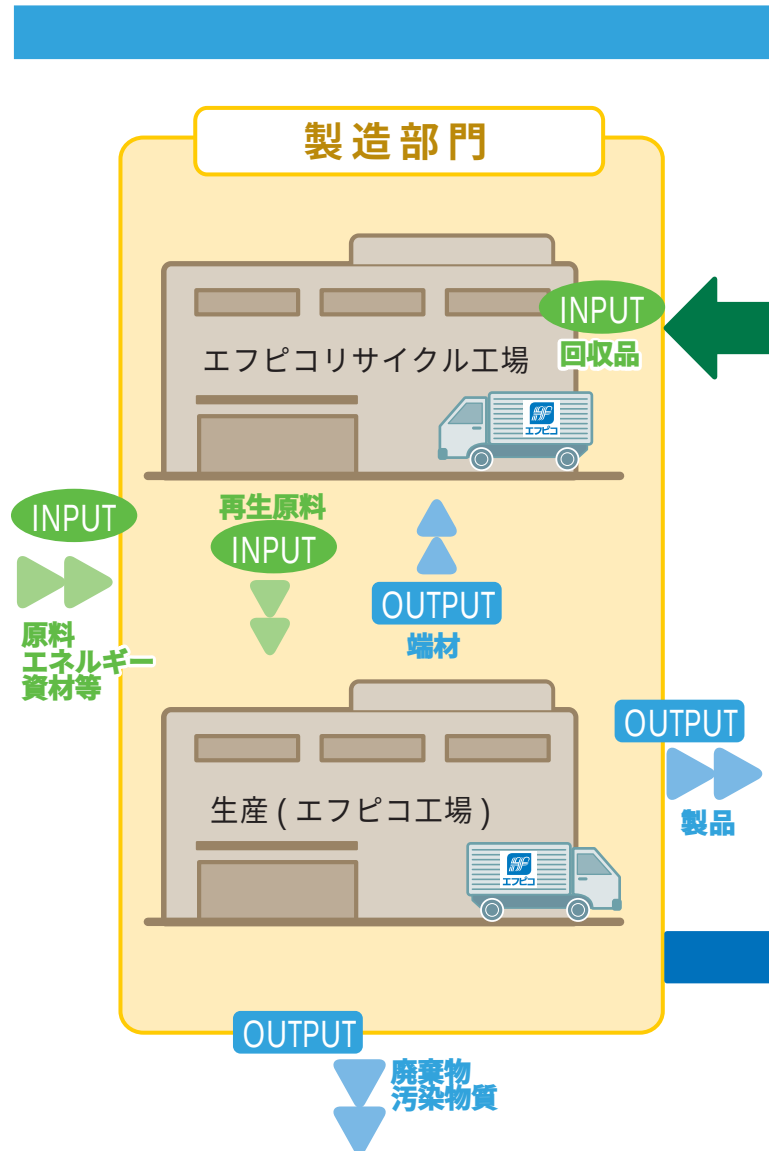
私たちエフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、

自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに務めています。

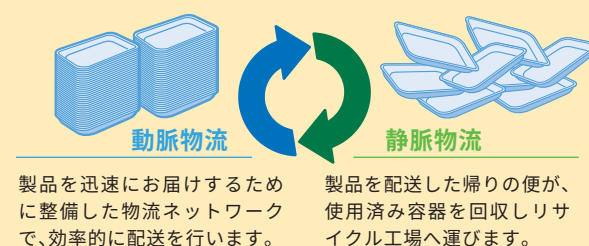
INPUT OUTPUT 各データ (2007年度)

● 表中の数値は年間積算値です。

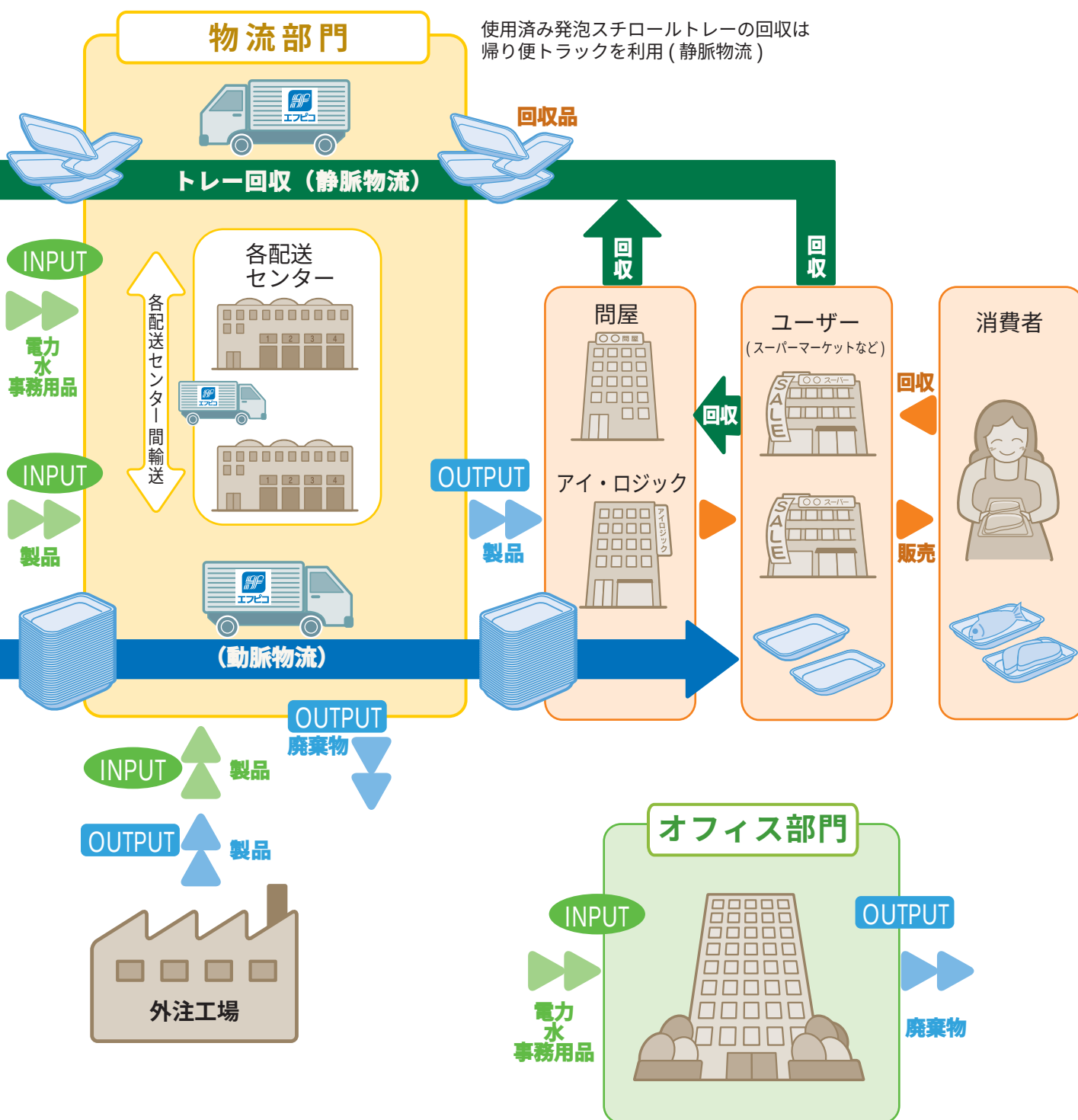
			製造部門	物流部門	オフィス部門	合 計
I N P U T	エ ネ ル ギ ー	購入電力 (kWh)	175,695,023	12,735,546	1,932,929	190,363,498
		化石エネルギー (MJ)	27,590,588	8,376,725	—	35,967,313
	水 資 源	上水 (m³)	139,732	13,641	—	153,373
		地下水 (m³)	328,668	0	—	328,668
		工業用水 (m³)	89,668	0	—	89,668
		合 計 (m³)	558,068	13,641	—	571,709
	原 料	樹脂類他 (t)	153,255	—	—	153,225
	副 資 材	段ボール (t)	22,770	1,482	1	24,253
		包装ポリ (t)	2,656	—	—	2,656
		合 計 (t)	25,426	1,482	1	26,909
	そ の 他	潤滑油 (L)	13,611	—	—	13,611
		シンナー (L)	4,614	—	—	4,614
コピー用紙等 (千枚)		2,422	9,935	7,660	20,017	
O U T P U T	製 品	製品生産重量 (t) (内、エコトレー 生産重量 (t))	132,489 (10,121)	—	—	132,489 (10,121)
		出荷トラック 台数 (台)	110,302	—	—	110,302
	廃 棄 物	再資源化 (t)	4,187	193	56	4,436
		最終処分 (t)	489	39	32	560
		合 計	4,676	232	88	4,996
		再資源化率 (%)	90	83	64	89
	環 境 汚 染 物 質	煤塵 (kg)	79	—	—	79
		NOx(kg)	2,193	—	—	2,193
		DXN 類 (mg-TEQ)	38.63	—	—	38.63
		BOD(kg)	591	—	—	591
		COD(kg)	463	—	—	463
		SS(kg)	723	—	—	723



エフピコの物流循環システム



物質フロー図





エフピコの事業は、
たくさんのステークホルダーに
支えられています。

エフピコとステークホル



原材料メーカー

・新素材の開発

生産機器メーカー

・省電力機器の提案

シートメーカー
副資材メーカー

・省資源製品の研究

コラボレーション

生産・再生

・低負荷製品の研究開発
・適地生産
・適量生産

グループ企業

障がい

・自立支

コンプライア

・近隣住民
・地域社会

・企業市民と
しての活動

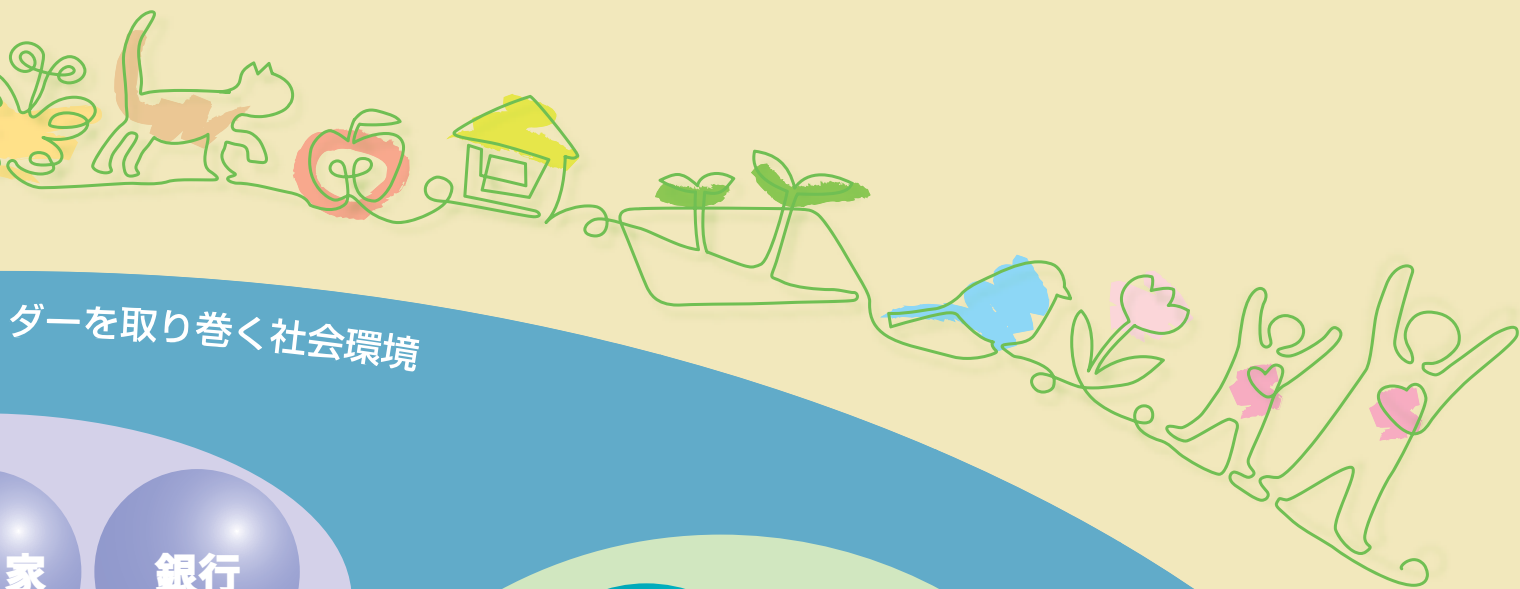
人と人、人と自然、
企業と社会をつなぐ企業であるために

エフピコの事業には、さまざまなステークホルダー（利害関係者）
が関わっています。

人々に広く貢献できる企業となることを目指して、それぞ
れのステークホルダーとの連携を大切にして事業を続け
てまいります。



エフピコとステークホル



ダーを取り巻く社会環境

家 銀行

コンプライアンス

フピコ

サプライチェーンマネジメント

卸

・卸問屋
・商社

食品加工メーカー

・使用済みトレー
の回収受け入れ

流通・販売

配送会社

・使用済みトレー
の回収受け入れ
・エコトレーの使用

・CO₂削減提案
・低負荷製品の納入
・売り場提案

・高度な配送効率 / 回収委託

従業員

小売店

・スーパーマーケット
・生活協同組合(COOP)
・コンビニエンスストア
・その他小売店

コラボレーション

グリーン購入

者
・生活の基盤づくり
援

ンス

・国
(経済産業省、環境省、
農林水産省など)
・地方自治体

消費者

使用済みトレー
の分別・店頭回収

・拡大生産者
責任(EPR)

ダーを取り巻く社会環境



製品開発における配慮

使いやすさはそのままに、環境保全に配慮した製品をお届けするために。
私たちエフピコは「環境経営5ヵ年計画」に基づき、
環境負荷低減のための研究開発に取り組んでいます。

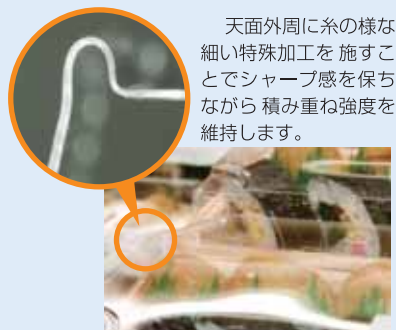


容器の軽量化を図っています

1 素材の薄肉化を進めています。

透明容器においては、容器成形に使用している樹脂シートを従来のものより薄くすることで製品重量を減らす試みを行っています。一般的に、素材の薄肉化を図ることで容器全体の強度は低下してしまいますが、リブ加工(平面に凹凸を付けることで強度を増す設計手法)を用いることで、軽量化と強度の両立を図っています。

リブ加工の一例：糸尻加工



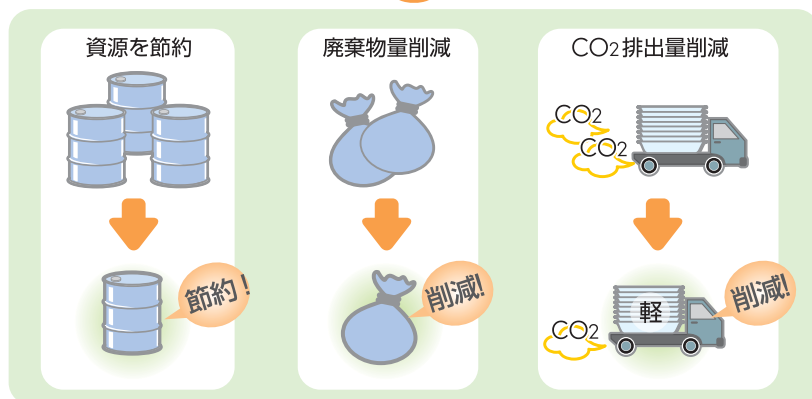
また、発泡素材であるPSP(発泡ポリスチレンペーパー)を使用する容器では、特殊な金型を使った成形技術を導入することで、従来製品からさらに軽量化を図ることが可能となりました。

2 さまざまな効果が軽量化によって得られます。

容器の軽量化を図ることで、原料となる原油の使用量を減らすことができるとともに、廃棄された時には廃棄物量を減らすことにもつながります。また、重量が軽いため、トラック輸送時のCO₂排出量削減にも効果が期待できます。

容器軽量化の効果

使っている原料の量が少ない。



発泡していない素材(HIPS)を使った製品と、発泡素材(PSP)を使った製品を比べると、同じように見えても重量は大きく変わります。

HIPSトレイ



PSPトレイ



ロースタック化による 物流効率の向上を図ります

トレーの運搬や保管等の利便性を高めるために、トレーを積み重ねた際のスタック(積み重ねた高さ)を低く抑える「ロースタック化」に取り組んでいます。

これは、強度や見栄えといった機能面での要件を損なわずに、トレーの縁の角度や樹脂シートの軽量化といった設計上の工夫によってスタックを可能な限り低く抑えようとする試みです。現在販売している「FLB」シリーズの場合、従来品であれば100枚積み重ねたときのスタックが800~900mmとなるところを、約40%減の450~550mmに抑えることに成功しています。

ロースタック化によりトレー保管時の容積を減らすことができ、倉庫などをより効率的に使うことができます。また、ロースタックトレー化により、トラック1台当たりの積載枚数が増えることから、輸送効率の向上、輸送コストの削減、ひいてはCO₂排出量の削減にもつながります。

スタック高さの比較

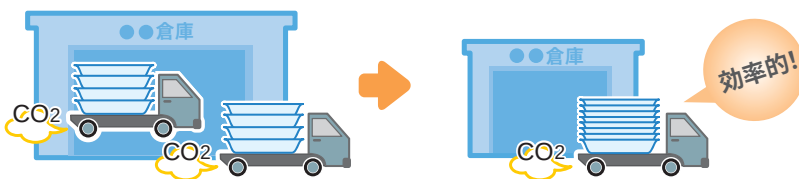


ロースタック化の効果

- 輸送回数の減少による、CO₂排出量の削減
- 倉庫内スペースの合理化・効率化
- 段ボールなど副資材使用量の低減

トラック積載数比較	従来品		「FLB」シリーズ	積載数差
ケース入数 (枚)	1,200	→	1,800	+600
積載ケース (ケース)	108		144	+36
積載枚数 (枚)	129,600		259,200	+129,600
積載重量 (kg)	983		1,433	+450

※ ラック荷台サイズ
荷室縦 8,200mm
荷室横 2,300mm
荷室高 2,600mm



公的な認定を受けています

1 エコマークの認定を受けています

環境省の外郭団体である(財)日本環境協会が、環境保全に役立つと認められる製品を認定する「エコマーク」。エフピコの「エコトレー」は、1991年、食品容器として初めてエコマーク製品として認定されました。



2 各県でエコ製品に認定されています。

エフピコの「エコトレー」は、2003年3月20日に岡山県でエコ製品に認定されたのを皮切りに、佐賀県、岐阜県、宮城県、広島県などでエコ製品に認定・登録されています。



VOICE 現場の声をききました。



製品開発部 製品企画2課
藤井 隆志

日々、さらなる軽量化への試行錯誤を続けています。

製品開発においては、克服すべき条件が非常に多いのが苦労するところです。

なかでも、既存品の軽量化、スペックダウンは特に難しいです。スタックは高くなっても、強度は落ちて、見た目が変わりすぎていけない。でも、値段が高くなることも避けなければいけないし、もちろん他社品に負

けるわけにもいかない。数々の条件を全てクリアしなければいけないため、軽量化の作業というのは頭を悩ませることが多いです。

普段なにげなく使っている容器に隠された見えない苦労にも注目してもらえると嬉しいですね。

工場における配慮

安全で高品質な製品を、環境への影響を抑えて生産するために。

私たちエフピコは、地道な取り組みを重ねながら、

より環境負荷の低い生産方法について、常に考えています。



生産効率の向上を図り、環境負荷を低減しています

工場の無駄をなくし、効率的な操業を追求することは、容器1枚あたりの使用電力量を減らし、結果として省エネルギーにつながります。エフピコの各工場では、生産効率向上および省エネルギー、環境負荷低減のための、さまざまな取り組みを進めています。

1 一貫生産ラインの増設を進めています。

成形品生産工場において、押出装置と成形装置を一つのライン上に配置することで、シートの押出しから成形加工までの連続生産を可能にした「一貫生産ライン」の増設を進めています。

一貫生産ライン化により、これまで工場間でシートを移動していた手間や時間、物流費、エネルギーが削減できるほか、原料シートの在庫を大幅に削減することもできました。

2 機器の省エネルギー化を進めています。

加熱が必要となる成形機等の機械には、保温効果を高めるために、断熱材を使ったカバーを設置しています。必要な温度を維持しやすい環境を作ること、省エネルギーと作業効率向上の両立を実現しました。

また、成形機や押出機等、生産ラインの機器については、ベルトコンベヤーにセンサーを設け、材料が流れていないときにはコンベヤーの電源をOFFにするよう設定し、節電を図っています。

3 端材・不適合品も、リサイクルしています。

成形工場で各種の容器を成形・裁断した残りの端材はもちろん、ペレットをシート化する際に、色や厚みが不均一で不適合品とされた物についても、同一工場内で再度ペレット化して利用しています。この端材・不適合品については、ほぼ100%を再利用しています。

4 作業効率向上のため、作業の簡素化を進めています。

工場内の各作業員の作業効率を高めるため、工場機器のレイアウト等を工夫し、一人で担当する作業の簡素化・マニュアル化を進めています。作業分担を減らすことで、作業の効率や精度を高めることを目的としています。

設備の見直しを行っています

1 焼却炉の使用を休止しました。

資源節約の取り組みを強化するため、従来焼却炉で焼却処分していた廃棄物について処分方法を見直し、可能な限りリサイクル業者に再生作業を委託することとなりました。それに伴い、2007年8月より福山の焼却炉の使用を基本的に休止することとなりました。

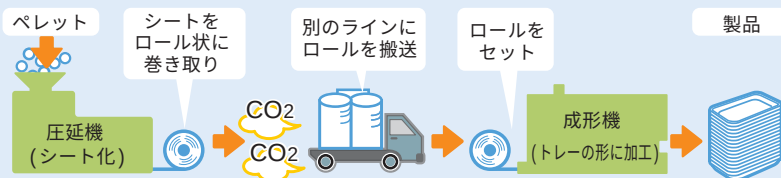
2 中部工場の屋上緑化を行いました。

2007年に新たに稼働を開始した中部第二工場では、屋上に緑地を設ける「屋上緑化」を取り入れました。屋上緑化はヒートアイランド現象の防止に効果があると言われており、室内温度の均一化に効果があると言われています。また、屋上に緑地を作ることで、従業員のリフレッシュの場としても活用されています。



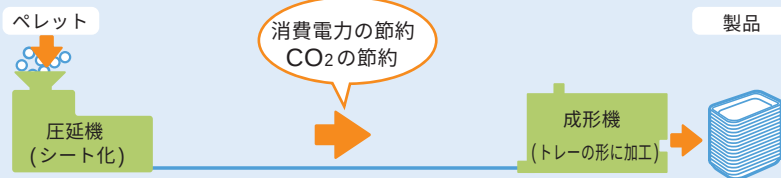
通常の生産ライン

シート化と成形のラインが分断しているため、輸送や成形機へのセットの手間がかかります。作業効率低下し、電力に無駄が発生します。また、輸送時にはCO₂等が排出されます。



一貫生産ライン

ペレット投入から成形までを一貫して行うため、生産効率が高まり、結果として消費電力の節約になります。



ISO9001の認証を 取得しています

お客さまや消費者の方々に、安心してご使用いただける製品をお届けするために、品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」の認証を、笠岡、関東下館、近畿亀岡の3工場で取得しています。

ISOの認証とは、ISOの定めた規格に従って業務を行っていることを証明するもので、ISOの規格を業務に取り入れることで、エフピコの場合は工場内での責任・権限の明確化や、業務の標準化、教育・訓練内容の充実、生産技術の向上、従業員のモチベーション向上といった効果が見られました。

今後も、より安全で、安心してご利用いただける製品を提供できるよう、さらなる品質向上を目指し、継続的改善を実施してまいります。

ゼロエミッション活動

ゼロエミッション活動とは「地球の限りある資源の完全かつ効率的利用と自然環境に人類が与える影響を最小化する」という構想に基づく活動で、国連大学によって1994年に提唱されました。

エフピコは、2006年度から2010年の達成目標を掲げ、活動をしています。

品質方針ならびに品質目標の一例(笠岡工場)

●品質方針

より良い製品で高い信頼、顧客のニーズを満たす製品を提供する。

本方針を維持・継続・実行する為に私達は下記の事項を確立します。

- ① お客様の要望を的確に捉え、対応できる品質マネジメントシステムを構築し、推進・維持・確立する為の経営資源を投入する。
- ② 本方針の推進の為に、具体的な品質目標を定める。
- ③ 食品衛生法等の関連法規を遵守する。
- ④ 市場の変容、当工場の改革等にあわせて本方針を定期的に見直し、適切性を持続すると共に、品質マネジメントシステムの有効性の継続的な改善を行う。
- ⑤ 本方針を全従業員に理解させる為にあらゆるコミュニケーションの場を通じて周知・徹底を行う。

平成16年9月15日 株式会社エフピコ 笠岡工場
経営者 田井 秀明

●2008年度品質目標

47期 工場品質目標

- ①クレーム削減(目標 43ppb / 押出 50ppb)
- ②生産性向上

47期 部署品質目標

PSP課 ①46期実績46ppbに対し10%削減⇒43ppb

②稼働率アップ(正味稼働率)⇒77%

PS課

①クレーム発生率 成型43ppb以下 / 押出 50ppb以下

②時間当りの生産性アップ(良品st / 時間)

・PS-2: 9.4%アップ・674st / h 以上

・PS-7: 3.5%アップ・842st / h 以上

エフピコゼロエミッション定義

- ① 総発生量 10%削減
- ② 最終処分量(単純焼却、埋め立て) / 総発生量=5%以下
- ③ 達成した月から3カ月間維持している
- ④ 再資源化手法、委託先が明確でありコンプライアンスが原則

VOICE 現場の声をききました。



株式会社エフピコ福山
門田 豊美

分別を徹底し、減量化を図りCO₂削減に努めています。

焼却炉の運転休止に伴い、従来焼却処分していた廃棄物のうちリサイクル工場及び各部署から発生した回収不適品、チップロス、廃プラ類及び紙類はリサイクル業者に依頼しRPF化、雑ゴミは分別の徹底を行い、一般廃棄物として引き取り業者に処分を依頼しています。

また、福山リサイクル工場で発生する不適品は回収袋の中身をチェックし、回収不適品の混入が多いユーザー

には営業部門を通して改善を依頼しています。他にも、各部署から発生する雑ゴミ、廃プラ類でしっかり分別されていないものについては、写真を送付し廃棄物の分別をお願いしています。

物流における配慮

製品をリアルタイムで管理し、現場のニーズに迅速に応えるために。
そして、物流の効率を高めながら、環境への負荷を極力抑えるために。
サプライ・チェーン・マネジメント(以下SCM)をはじめとする
多種多様なシステムを導入し、消費エネルギーの削減を目指しています。

SCMシステムの活用による効率化を図っています

1 需要予測に基づく生産・配送計画を行っています。

通常、頻繁にコミュニケーションを取る機会の少ない製造・物流・販売部門間の連絡・調整をSCM部門が間に入って行うことで、より効率的で無駄のない生産を行っています。

これは、販売部門の売上予測や前年の売上実績などを参考にしながらSCM部門で需要を予測し、それに対応した生産・配送の計画、さらに生産を行うための材料発注にいたるまでを、トータルに管理するものです。このような体制をとることで、在庫不足や過

剰在庫の発生を防ぎつつ、お客さまのニーズにお応えする対応力を高めることができました。

2 配車計画システムを全国で導入しています。

配送センターでは「倉庫管理システム(LIGNS)」及び「配車計画システム(NEUPLANET)」を活用し、効率的な配車・配送を実現しています。

このシステム導入により、配送効率の向上による総配送車両台数の削減及び総車両運行時間の短縮を図ることができました。また、その結果、燃料消費量の削減及び排出ガスの削減にも効果がみられ、エフピコ全体の環境負荷低減に大きく貢献することができました。

施設拡充による効率化を図っています

2007年度は、下館工場、中部工場の2工場と、下館倉庫、八千代センター、中部工場倉庫の3倉庫を新設いたしました。

消費地に近い場所に生産拠点を開設することで効率を高めるとともに、配送センター間で在庫等を移動させる「横持ち」を減らすことで輸送コストの削減を図りました。



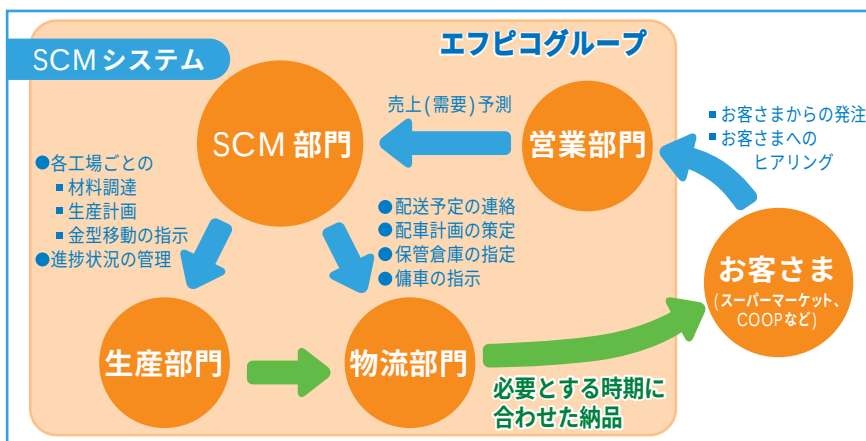
下館工場



中部工場



八千代センター



VOICE

現場の声をききました。



エフピコ物流株式会社
福山配送センター
寺田 聖

輸配送の効率化で、トラックの消費燃料を減らしています。

配送業務の内容は、日々の受注量を予測して、事前に備車(他の輸送業者のトラックを手配し、輸送を手伝ってもらうこと)の手配を行い、商品をお客さまの納品条件にあわせ効率よく配送することです。配車計画システムを活用し、トラック1台1台のCO₂排出量を少しでも減らせるよう、容積と重量を考慮した最適車両の設定や積載率、配送効率の向上に、常に気を配っています。

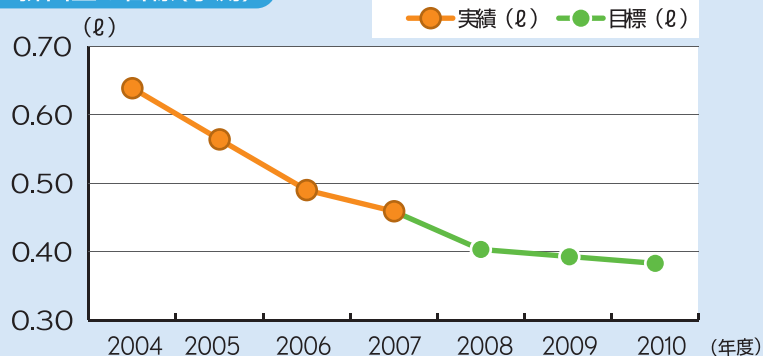
福山配送センターでは、通常期で1日当たり100台以上、繁忙期では170台以上にもなる配送トラックの帰便を有効に活用したり、空荷で走る距離が少なくなるよう配送プランを考えたりと、頭を悩ませながらも、最適な輸配送を行えるよう、全員でがんばって取り組んでいます。

CO₂排出量削減を進めています

物流過程で発生するCO₂を削減することを目標として、「物流部門CO₂削減分科会」を2004年に設置。容器配送枚数1,000枚あたりのCO₂排出量を40%削減(基準年2004年、達成年2010年)することを目標として活動を続けています。

計画2年目となる2007年度は、昨年度に引き続き、各地の需要に見合う現地生産体制の整備を進めました。また、新たな工場・倉庫を新設することによって拠点間の輸送コストを削減したり、エコドライブ・積載効率向上に地道に取り組むことで、前年度に比べ3%のCO₂排出量削減を実現することができました。

CO₂排出量の目標(予測)



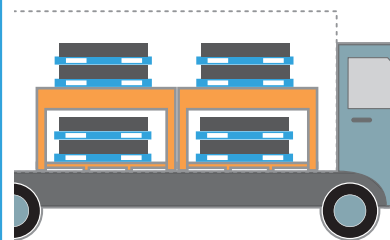
特定荷主の指定を受けました

昨今のエネルギーを巡る情勢を踏まえ、各分野におけるエネルギー使用の合理化を進めるための法律「エネルギーの使用の合理化に関する法律(通称・省エネ法)」の改正法が、2006年に施行され、同法が定める「特定荷主」の指定を受けました。特定荷主には年度ごとのエネルギー使用量の報告と、省エネルギー計画の策定が義務づけられており、指定初年度となる2007年度には、最初の報告書・計画書を経済産業省に提出いたしました。今後も、エネルギー節約のための継続的な取り組みを進めてまいります。

金型配送の効率化をはかりました

容器を成形するための金型は、すべての工場にすべての種類を備えているわけではありません。必要に応じ、近隣の工場から輸送する必要があります。その際、重量物である金型の運搬をより安全に、効率よく行うために、金型輸送専用のラックを一部のトラックに取り付けました。

トラック用金型輸送ラック



『エフピコ物流協会』でグリーン経営認証取得を進めています

エフピコを支える全国21社の物流企業で組織する『エフピコ物流協会』では、会員企業による『グリーン経営認証(認証機関:交通エコロジー・モビリティ財団)』の取得を、2006年度に引き続き進めています。現在、ISO14001認証1社、ISO9001認証2社、グリーン経営認証4社が取得しています。さらに5社が取得をめざしています。

また、さらなる環境意識の向上を目指し、同協会にて年4回にわたり開催する研修会において環境問題をテーマとした勉強会を実施したり、「エコドライブ10カ条」を定めて会員企業に周知するなど、積極的な啓発活動を行っています。



ドライバーの詰め所には、各人の燃費をグラフ化して掲示しています。

エコドライブ10カ条 (チャレンジ燃費向上!!)

- ① 無用なアイドリングをやめる
(アイドリングストップ)
- ② 経済走行、低速走行・高速道路
法定速度・一般道路
- ③ 点検・整備(タイヤの空気圧を適正に)
- ④ 無駄な空ぶかし禁止(大型車1回で10~17cc)
- ⑤ 滑らかな発進・加速(急発進・急加速の禁止)
- ⑥ 適切な車間距離をキープ
- ⑦ 早めのシフトアップ
(低速ギアで引っ張る運転は避ける)
- ⑧ 早めにアクセルペダルを外す
(惰性走行の活用)
- ⑨ エアコンの使用はひかえめに
- ⑩ 暖気アイドリング2分以内

オフィスにおける配慮

全社一丸となって省資源・省エネルギーに取り組むために。
各地のオフィス部門でも、積極的な取り組みを進めています。



オフィス内における 取り組みを積極的行っています

1 古いパソコンのリサイクルを進めています。

従来は、使わなくなった古いパソコンは廃棄処分としておりましたが、2005年より、内部のデータを消去してからリサイクル業者に引き渡しています。

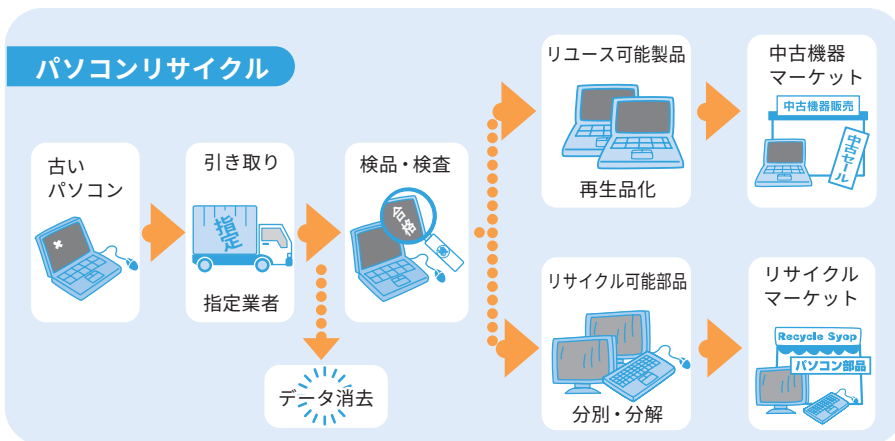
業者に引き渡されたパソコンは、分解されたのち部品を再使用(リユース)されたり、再生して販売(リサイクル)されます。

2 従業員の環境意識を高めています。

従業員を対象とした環境セミナーの開催や、環境負荷低減の取り組みに関する情報発信を行う「環境掲示板」の設置、クールビズ／ウォームビズの推進などへの積極的な取り組みを通じ、従業員一人ひとりの環境保全意識を高めるよう努力しています。



▲ 環境セミナー



3 廃棄物の分別を積極的行っています。

素材ごとに複数のゴミ箱を用意し、オフィス内での廃棄物の分別を積極的に行っています。特にPETボトルについては、本体、蓋、ラベルの素材分別を徹底しています。また、ゴミ集積所についても「資源分別ステーション」と名前を変え、「分ければ資源、混ぜればゴミ」のスローガンを大きく掲示することで、「ゴミ」から「資源」へと、従業員の意識を変える取り組みを行っています。

また、それぞれのオフィスで働く従業員一人ひとりが、廃棄物の排出量を減らすよう努めています。

4 グリーン購入を積極的に進めています。

環境負荷ができるだけ低い製品やサービスを選んで購入・利用しようという、いわゆる「グリーン購入」を、それぞれのオフィスで実践しています。

5 小さな省エネに取り組んでいます。

オフィス機器や蛍光灯等の備品を、順次省エネ型の製品に交換しています。また、照明やOA機器の電源をこまめにOFFにするといった小さな省エネに、従業員一人ひとりが気を配っています。

6 自動販売機を通じた環境保全活動に協力しています。

NPO法人「ふくやま環境会議」の提唱する「幼稚園・小中学校の校庭芝生化」という趣旨に賛同し、売上金の一部を同NPOに寄付する「『校庭芝生化』支援自動販売機」を本社及び福山リサイクル工場に設置しています。昨年度の寄付金総額は485,880円です。

また、東京本社では、売上金の一部が(社)国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付される自動販売機を設置しています。



自動車の使用スタイルを見直しています

1 ハイブリッドカーの導入を進めています。

各地の営業・生産拠点で使用している社用車について、CO₂排出量の少ない「ハイブリッドカー」への転換を、2005年度より順次行っています。

ハイブリッドカーのCO₂排出量は、従来のガソリン車の約50%で、今後、順次社用車の転換を進めていくことで、CO₂排出量を大きく削減することが期待できます。

現在、社用車325台中、43台の転換が完了しています。また、4つ星低公害車の導入も順次進めてまいります。



2 軽自動車の試験導入を始めました。

従来、エフピコの営業車は、荷室容量などを考慮して普通車を使用しておりましたが、自動車によるCO₂排出を抑制するために、2008年2月より、近距離エリアの営業車として軽自動車(660cc)を試験的に導入いたしました。

軽自動車はコンパクトで重量が軽いことから省資源・省エネルギー性に優れ、道路への負荷も低くする効果があります。試験導入終了後、首都圏などの混雑地域においても順次導入していく予定です。

3 エコドライブに向けた呼びかけを行っています。

社用車を運転するすべての従業員に対し、環境負荷を抑える運転方法、いわゆるエコドライブについて、具体的な項目を挙げたミニポスターを社内に掲示すると共に車内にも常備して、注意を喚起しています。

環境に配慮した設備導入を行っています

1 本社の屋上緑化および太陽光発電パネルの設置

2007年に落成した本社(広島県福山市)の社屋では、環境保全に配慮し、ヒートアイランド現象を緩和させる効果のある「屋上緑化」を導入いたしました。約330m²の広さの屋上にはブルーパシフィックやパンジーなどの低木や花が植えられたほか、ウッドデッキやベンチ等が設置され、ヒートアイランド現象の緩和だけでなく、従業員の憩いの場としても活用されています。

また、屋上には太陽光で発電するためのソーラーパネル24枚を設置しています。発電した電気は、オフィスの空調などに役立てられます。



2 テレビ会議システムの活用を進めています。

拠点間の社員移動によって発生するCO₂を抑制するために、全国の拠点を結んでいるテレビ電話会議システムを従来以上に活用し、会議などによる社員の移動を可能な限り減らす試みを2007年度から開始しました。特に、全国の担当者が集まるような会議において積極的に活用することで、大きな成果がみられました。



全国合同営業会議(於:広島県福山市)の参加者内訳とCO₂削減量

拠点	出席者	
	昨年度	今年度 (差)
東京本社	83名	▶6名(△77名) 利用交通機関:飛行機
大阪支店	32名	▶5名(△27名) 利用交通機関:鉄道
仙台営業所	14名	▶1名(△13名) 利用交通機関:飛行機
広島営業所	11名	▶1名(△10名) 利用交通機関:鉄道
福岡営業所	15名	▶1名(△14名) 利用交通機関:鉄道

その他拠点を含めた
全国計 187名→16名(△171名)
合計CO₂削減量 9,550kg-CO₂

※CO₂削減量はJR東日本提供データを使用し算出

VOICE 現場の声をききました。



総務部
佐藤 佳子

従業員の環境意識を高めるために、小さな取り組みから始めています。

総務部としては、社内の物品購入の際になるべく「グリーン購入」を利用するように努めています。なかでも修正液やマーカーなど詰め替えができるものは、詰替用を購入するようにしています。あとは各部署にお昼や帰宅時に、余分な電気を消すよう指導したり、ゴミ分別コーナーに分かりやすい表示を設けることで環境保全への意識を高めてもらえるようはたらきかけを行っています。

いずれも小さな取り組みですが、小さなことから従業員全体に、ゆっくりとでも、環境意識の高まりが伝わっていくといいと思います。また、私個人としても、ペットボトルのゴミを減らすためにマイカップを持参するようになり、ミスコピーなどの裏を利用してメモ帳がわりに使ったりしています。

消費者とのかかわり

食品流通の中で、食品容器を最後に手にするのは消費者の方々です。

私たちエフピコは、消費者の方々とのコミュニケーションを大切にしながら、そこで得られた貴重なご意見を、より良い製品づくりに役立てています。

消費者との交流を図っています

全国各地で環境をテーマとしたさまざまな展示会が開催されています。エフピコではこれらの展示会に積極的に参加し、「エフピコ方式」のトレーリサイクルの仕組みや、「エコトレ」をはじめとする環境に配慮して作られた製品を紹介し、消費者の方々との連携、協働を通して環境保全活動の拡大につとめています。

また、これらの展示会は、エフピコからの情報発信だけでなく、展示会に来場された環境関連企業、行政、消費者、学生の皆さまとトレー回収や環境負荷低減の活動についての意見交換・情報収集を行う貴重な場ともなっています。

展示会・イベント風景



エコフェスタおかやま 2007



津山市「第31回くらしと消費生活展」



「環境の日」ひろしま大会



家族環境小学校 I N国府

2007年の環境展示会・イベント

日付	展示会名称	開催地
2007年 5月18日～19日	広島市「第41回消費生活展 消費者のつどい」	広島県
6月 2日～ 3日	「環境の日」ひろしま大会	広島県
7月21日	第2回「おかやま・もったいない」晴れの国フォーラム	岡山県
8月24日～25日	信州環境フェア2007	長野県
8月26日	津山市「第31回くらしと消費生活展」	岡山県
10月20日	マックスバリュ西日本(株) 高屋店「環境リサイクル フェスティバル」	広島県
11月18日	エコフェスタおかやま2007	岡山県
11月18日～19日	トヨタ生協「メグリア良品フェア」	愛知県
12月13日～15日	エコプロダクツ2007	東京都
2008年 2月17日	家族環境小学校 IN 国府	広島県

展示会「エコプロダクツ 2007」 に出展しました

2007年12月11日～13日、国内最大規模の環境関連展示会である「エコプロダクツ2007」において、エフピコはイオングループ様のブースの一角でトレーリサイクルや、CO₂削減活動について展示させていただきました。環境配慮に積極的な企業グループとして来場者の関心も高い同ブースには、大勢の方が訪れ、エフピコの取り組みも広くご理解いただくことができました。



「エコプロダクツ 2007」に出展した
イオングループのブース内 エフピコの展示コーナー

社外での講演活動 を行っています

トレーリサイクルの仕組みと意義を、消費者の方々に正しく理解いただき、環境保全への認識を高めていただくために、小学校や消費者団体など社外からの講演会等の要請は積極的にお受けしています。

2007年には、横浜市を中心に展開しているスーパーマーケットチェーン相鉄ローゼン様と協力して、横浜市内の小学校8校において、「横浜市 グリーン購入出前講座」を実施しました。

「横浜市 グリーン購入出前講座」実施一覧

学校名	所在地	日 程
城郷小学校	港北区	10月 4日 (木)
元町小学校	中区	10月 22日 (月)
上河合小学校	旭区	10月 23日 (火)
公田小学校	栄区	11月 6日 (火)
南台小学校	港南区	11月 8日 (木)
希望が丘小学校	旭区	11月 20日 (火)
洋光台第二小学校	磯子区	11月 21日 (水)
矢部小学校	戸塚区	12月 5日 (水)



JICAの工場見学を 受け入れています

エフピコでは、JICA(国際協力機構)が海外から招いた研修生の受入れを1999年から、年4件程度の頻度で受け入れています。研修生の多くは各国の環境省や各州都の行政幹部の方々と、公害防止対策や廃棄物行政のモデルとして「エフピコ方式」のトレーリサイクルを参考にされるそうです。2007年度には4件43名(19カ国)の方が、また受入開始からの約10年間で、アジア圏を中心とした45カ国の方々がご来場になりました。



株主とのかかわり

株主の皆さまに安心して投資していただけるよう、
会社情報の開示および経営の透明性確保を通じ、
株主とのコミュニケーションの充実に努めています。

適正な情報開示を行っています

エフピコは、常に法令を遵守しながら適時・適正・迅速・公平に企業情報を開示し、さまざまなIR活動を通じて株主などの投資家と積極的な意見交換を行っています。

機関投資家やアナリストに対しては、株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや生産・物流・リサイクル施設見学会などを実施し、事業内容の理解促進に努めています。また、株主の皆さまとの重要なコミュニケーションの場である株主総会においては、十分な討議・検証ができるよう招集通知の早期発送に努めています。

株主以外のステークホルダーについても、決算・業績関連の概況については記者会見などを通じて、有価証券報告書・決算短信・四半期ごとの業績概要・決算説明会資料・プレスリリースなどについてはホームページのIRコーナーで開示しています。

また初の試みとして、第45回定時株主総会の終了後に株主の皆さまと当社役員との対話を目的とした「懇談会」を開催いたしました。当日は多くの株主の皆さまにご参加いただき、貴重なご意見を数多くいただくことができました。

経営の健全性と、企業価値の拡大を目指します

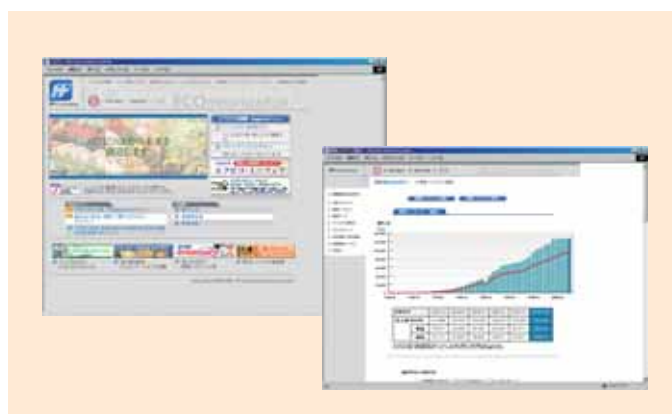
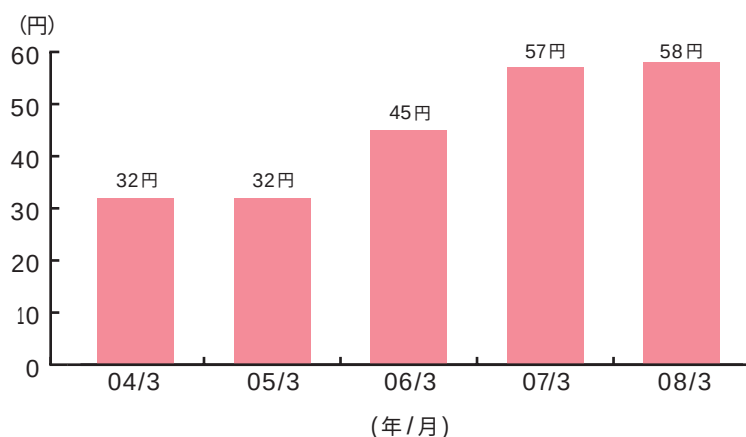
エフピコは、収益性、株主価値向上の観点から、重点経営指標として、1株あたり利益250円、株主資本純利益率(ROE)10%の実現を経営上の目標としています。また、既存事業の再編や効率化、グループ経営計画の諸施策を着実に実行し、あらゆるステークホルダーと協調しながら、企業価値・株主価値の最大化に向けて、努力を重ねてまいります。

安定した配当を続けています

株主への利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図り、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを経営方針としています。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり58円の配当(うち中間配当28円)を実施いたしました。この結果、当事業年度の配当性向は30.2%となりました。

配当の推移



お客さまとのかかわり

私たちエフピコは、直接のお客さまである小売業・販売業の方々と良好な関係を保っていけるよう、高品質な製品をお届けするだけでなく、マーケットの動向やその分析情報などの提供を通じ、お客さまのビジネスのお手伝いをしています。

容器にとどまらない 幅広い売場提案を行っています

スーパーマーケットなどの小売業・販売業の方々に、エフピコの新製品を活用して、売れる商品や売り場の提案を行うイベント「エフピコ・ミニフェア」を、全国の主要都市で定期的開催しています。

会場内には、食品容器に本物の食材を盛りつけ、実際の売り場で使用している冷蔵ケースなどの什器に並べることで、スーパーマーケットなどの売り場をそのまま再現。容器だけでなく、POPや展示方法、季節ごとのメニュー提案など、売り上げ拡大のための総合的な提案を行っています。



2008年春には「個性派定番のスヌメ～さあ、食卓へ。」をテーマに、全国7都市で同フェアを展開。最近のお弁当やお総菜のトレンドを紹介しながら、時代のニーズに応えるための売り場づくりや売り方を提案いたしました。また、エコトレやトレリサイクルに関する展示スペースも大きく広がり、多くのお客さまに興味を持っていただきました。



協力企業を招いた 工場見学会を行っています

エフピコの事業にご協力いただいている卸業の皆さまの集まり「エフピコ会」の会員企業を対象とした研修会を、2～3月にかけて福山リサイクル工場で開催いたしました。今回の研修会は関西・中四国・九州地区の200名を越える会員企業さまにご参加いただきました。当日は、トレリサイクルの現場や、試験稼働中の透明容器の選別プラントをご視察いただくとともに、トレリサイクルによるCO₂削減効果などについてご説明いたしました。

トレリサイクルについては、仕組みはご理解いただいているものの、実際に現場を見たことがある方は少なかったようで、回収量の多さや選別の様子などに驚いていらっしゃいました。また、透明容器の回収を早く実現してほしいと要望される声も多く聞かれました。



2007年度エフピコ・ミニフェア開催実績

2007年 秋	2008年 春
大 阪 8月29日(水)	名古屋 3月4日(火)
東 京 9月5日(水)	東 京 3月11日(火)～12日(水)
金 沢 9月12日(木)	大 阪 3月19日(水)
	福 岡 4月10日(木)
合計3都市 3日間 来場者数 約6,000名	合計4都市 5日間 来場者数 約8,800名
2007年度来場者数合計 約14,800名	

従業員とのかかわり

企業のもっとも大切な財産は従業員であると、私たちエフピコは考えます。すべての従業員が、能力を存分に発揮できる環境を常に整えるために、その教育や待遇についても充実を図っています。

従業員を対象に定期的な環境教育を行っています

『エフピコ行動憲章』では、『良き企業市民として積極的に社会貢献活動を行う』と謳っています。その一貫として、従業員一人ひとりの環境に対する知識や意識を高めるために、定期的な環境教育を実施しています。

自然環境に配慮した行動が取れる、良き社会人の育成を目指しています。

採用内定者・新入社員への研修を行っています

1 インターネットを使った入社前研修を行っています。

新卒の採用内定者に対し、インターネットを利用した研修・オリエンテーションを行っています。これは、既存のe-ラーニングシステムを利用したもので、このサイトにアクセスすることで財務知識やITスキル、社会人としてのマナーなどを入社に先駆け学んでいただき、入社後に即戦力として活躍してもらうためのものです。

この専用サイトには、会社からの情報提供機能や内定者間でのコミュニケーション機能も備えており、新たに社会人となるための意識改革に有効に活用しています。



2 新入社員教育にも力を入れています。

新入社員に対して、エフピコ方式のリサイクル「トレートトレ」についての講義や、リサイクル工場の見学、生産工場や物流センターでのライン体験など、トレートの生産からリサイクルまでのさまざまな現場を体験することを通じて、環境意識や企業市民としての良識を育てています。

社員のステップアップを支援しています

1 自己啓発活動を積極的に支援しています。

従業員の自己啓発活動を会社として支援するために、エフピコでは外部の自己啓発教育機関の講座の中から指定した講座に限り、修了時に費用の50%を補助する制度を整備しています。

講座内容は「EXCEL」「WORD」などのパソコン技能に関するものから「生産マネジメント」「キャッシュフロー分析」などの業務に関する講座、「ISO14001規格認証取得実務」などの環境関連講座、「語学」「ことばづかい」などの一般教養講座まで、幅広い分野から組み合わせることで取得することができます。例年、多くの従業員が受講しています。



2 海外の流通現場の視察を行っています。

海外の流通現場の様子を肌で感じるために、入社10年以上の従業員を対象とした海外研修を行っています。訪問先のハワイやロサンゼルスといった海外の主要都市で、スーパーマーケットなどの販売現場を巡り、日本とは異なる文化圏での販売スタイルを学びます。

この研修制度は1979年の開始時から約30年の間続けられており、500人を超える従業員が参加しています。



ハワイのスーパーマーケット

スーパーマーケットなどの食品売り場では、日本と違ったディスプレイや包装に対する考え方を見ることができました。

従業員の子育てを企業として支援しています

1 育児休業制度の取得を推奨しています。

「育児休業制度」は、育児休業法という法律で定められた権利です。しかし、育児休業を取得しにくい雰囲気職場があることも事実です。

エフピコでは、優秀な人材が安心して出産・復帰できるよう、仕事と子育ての両立できる、育児休業制度をより多くの従業員が活用できる環境づくりのために、現場の指導などを行っています。また、指定の年齢の子どもを持つ従業員に対しては、変則的な時間の勤務を認める「育児短時間勤務制度」の利用も、会社として推奨しています。

2 妊娠中の通院をサポートします。

妊娠中の女性従業員が通院するための時間を、勤務時間として算定するよう人事制度を改めました。妊娠中の従業員を経済的に保証することで不安をなくし、心身共に健康な状態で出産に臨んでもらうための施策です。また、併せて各職場において、妊娠中の女性従業員の通院に協力するよう通達しています。

本社内にAED(自動体外式除細動器)※を設置しました

昨今のAED(自動体外式除細動器)の普及を鑑み、本社(広島県福山市)の社屋内1カ所に、AEDを設置しました。また、あわせて従業員に対しAEDの使用法に関する講習会を開催しました。



※AED(自動体外式除細動器)

強力な電気ショックで、心臓の心室細動を除去するための装置です。以前は医療従事者以外の使用は認められていませんでしたが、2004年の法改正後、一般市民の使用が認められ、駅や学校などの公共機関等においても普及が進んでいます。

社内報による情報共有を図っています

グループの従業員や関連企業に向け、エフピコのさまざまなニュースを掲載した『エフピコニュース』を定期的に発行し、グループの従業員間における情報共有・社内意識の統一に役立てています。同ニュースには環境教育のコーナーも設けられており、グループの従業員に対する継続的な環境教育の場として機能しています。

また、エフピコグループを結ぶ社内PCネットワークでは、エフピコの環境事業に関する情報をタイムリーに発信しています。



VOICE 現場の声をききました。



SCM本部 生産企画部
児玉 彩

育児支援制度のおかげで、安心して復職することができました。

息子と娘の2回、育児休暇を取得し、この春から息子は幼稚園へ、娘は祖父母に預けて、職場復帰をしました。長男の時には、なにもかもに戸惑い、焦っていましたが、娘の時は短時間勤務制度があることを知っていたので、安心して復職することができました。家族に過度な負担をかけずに働けるのは助かります。

ただ、これに甘えることなく、短時間でも密度の濃い仕事をして良いモデルケースとなることで、これから育児を目指す方が育児支援制度を利用しやすい土壌づくりに協力できたらと思います。

地域とのかかわり

地域社会の一員として、周辺地域の皆さまと協調し、

良好な関係を築いていくために。

各地の拠点において、地域の美化・活性化に積極的に取り組んでいます。



障がいを持った方々を積極的に雇用しています

1 障がい者雇用率は10.74%となりました。

障がいを持った方々に働く場を提供することは、地域に根ざした企業としての、大切な使命の一つであると考えます。エフピコでは、1986年には厚生労働大臣から「特例子会社」の認定を受けた「ダックス事業」を、また2006年からは障害者自立支援法の「就労継続支援A型」に認定された「愛パック事業」に取り組み、雇用の拡大に努めてまいりました。その結果、障がい者雇用率は10.74%（2008年3月31日現在）となりました。

障がい者雇用活動への取り組み

1986	ダックス事業のスタート 1月 株式会社ダックス設立
1995	4月 株式会社ダックス四国設立 4月 株式会社ダックス佐賀設立
2006	愛パック事業のスタート 10月 株式会社ダックス設立
2007	2月 広島愛パック株式会社 工場開設 3月 エフピコ愛パック株式会社 設立 5月 エフピコ愛パック福山工場 開設 8月 エフピコ愛パック佐賀工場 開設 9月 エフピコ愛パック岐阜工場 開設 エフピコ愛パック茨城工場 開設 10月 エフピコ愛パック西宮工場 開設 エフピコ愛パック山形工場 開設
	福山、佐賀、茨城、岐阜、西宮に 発泡トレー／透明容器の選別工場を 開設予定



2 特例子会社3社による「ダックス事業」を展開中です。

エフピコでは、1986年に障がい者の安定的な職場の確保や社会参加を目的としたグループ企業「株式会社ダックス」を設立し、厚生労働大臣から株式会社エフピコの特例子会社として、認定を受けました。健常者と相互に協力しあい、操業を続けてまいりました。

1995年には「株式会社ダックス四国」、2006年には「株式会社ダックス佐賀」を加え、さらなる雇用の拡大に取り組んでいます。

2008年3月31日現在、ダックス3社で合計81名の障がい者を雇用しています。



株式会社ダックス(千葉県)



株式会社ダックス四国(高知県)



株式会社ダックス佐賀(佐賀県)

VOICE

障がいを持つ従業員とその保護者の方々の声

従業員Aさん

就職できて嬉しい。長く働けるようがんばりたい。

Aさんのご家族

いままでは、外出時の出来事などを自分から進んで話すことはありませんでしたが、仕事を始めてからは工場での出来事や仲間のことなどを話すようになり、家での会話が増えました。

従業員Bさん

いままで友だちがいなかった。けれど、今はいる。

Bさんのご家族

知的・身体の両方に障がいがあり、就職は無理だと思っていました。本人も毎日がんばっているの、家族も精一杯支えていきたいと思っています。

従業員Cさん

1日働くのは疲れる。けれど、仕事だからがんばります。

Cさんのご家族

職場を拝見したのですが、もっとのんびりと仕事をしていると思っていました。しっかりと働く姿を見て、「ちゃんと仕事ができるのだ」と見直しました。

3 「就労継続支援A型」制度を利用した、「愛パック事業」も拡大中です。

2006年4月に、障がい者の自立を促進することを目的とした法律「障害者自立支援法」が制定され、同法における「就労継続支援A型※」の事業所として、エフピコは営利法人としては日本初の認定を受けました。

初年度の「広島愛パック株式会社」の設立・稼働に続き、2年目となる2007年には「エフピコ愛パック株式会社」を設立。同社の工場として、福山、佐賀、岐阜、茨城、西宮、山形の6拠点を開設いたしました。また、2008年12月には北海道工場を開設する予定です。

2008年3月31日現在、愛パック事業全体で153名の障がい者を雇用しています。



エフピコ愛パック株式会社



広島愛パック株式会社



明るく、やり甲斐のある職場です。

各事業所での障がい者雇用数

●特例子会社(ダックス事業)

株式会社ダックス(千葉)	19名
株式会社ダックス四国	24名
株式会社ダックス佐賀	7名

合計50名

●就労継続支援A型 (障害福祉サービス事業所)

広島愛パック株式会社	11名
エフピコ愛パック株式会社	
福山工場 13名	佐賀工場 11名
岐阜工場 11名	茨城工場 13名
西宮工場 13名	山形工場 10名

合計82名

※就労継続支援A型：一般の企業で就労することが困難な障がい者を雇用し、福祉サービスを受けながら就労するスタイルの事業所タイプを指します。

地域のイベントに協力しています

企業市民の一員として、地域のイベント等に積極的に参加し、地域活性化に協力しています。

2007年11月には、知的障がい者の社会参加を目的とした団体「社会福祉法人『ゼノ』少年牧場」の主催で開催された「第19回みどりバザー」において、焼きそばや牛丼などを模擬店で販売するための各種容器の提供を行いました。

当日は晴天に恵まれ、大勢の来場者で賑わいました。



第19回みどりバザー会場ではエフピコ提供の容器が役立ちました。

近隣の清掃活動を定期的に行っています

地域の皆さまに愛される企業であるために、各地の工場・事業所では、「安全衛生委員会」のもとに組織された「地域安全衛生委員会」「職場別安全衛生会議」を中心に、工場周辺地域の清掃活動を定期的に行っています。



万一の事態に備えた訓練を行っています

エフピコの工場では、可燃性のプラスチックを扱うため、万一の事態に備え、消防署の指導のもと、総合消防訓練を定期的実施し、迅速な初期消火や避難ができるよう備えています。



地域と連携し、使用済み食品トレーの回収を行っています

エフピコは、おつきあいのあるスーパーマーケット等の企業や学校などと連携し、使用済み食品トレーの回収を自主的・積極的に実施しています。回収したトレーは工場「エコトレー」に再生することで、容器包装リサイクル法で推奨されている3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進に率先して協力しています。

エフピコのあゆみ

年度	環境経営	表彰
1990	9月 エフピコ方式のリサイクルスタート 12月 笠岡リサイクルセンター稼働開始	
1991	10月 関東リサイクルセンター稼働開始 11月 東北リサイクルセンター稼働開始 業界初のエコマーク認定	4月 バルディーズ研究会『会員部門最高得点票賞』受賞
1992	3月 エコトレー販売開始 4月 環境対策室設置 5月 中部リサイクルセンター稼働開始 9月 九州リサイクルセンター稼働開始 10月 学校回収スタート、社内のトレー回収スタート	10月 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて 東北リサイクルセンターが『平成4年度リサイクル推進功労者賞』受賞
1993	2月 福山リサイクルセンター稼働開始 12月 沖縄減容工場稼働開始	3月 (財)クリーン・ジャパン・センター主催『再資源化貢献企業表彰事業』にて 『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞
1995		
1996	2月 北海道リサイクルセンター稼働開始 6月 トレー回収拠点5,000拠点到 11月 沼津リサイクルセンター稼働開始	2月 『兵庫県環境にやさしい事業者賞』受賞 6月 『第4回横浜環境保全活動賞』受賞 10月 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクルセンターが 『通商産業大臣賞』受賞
1997		3月 (財)クリーン・ジャパン・センター主催『再資源化貢献企業表彰事業』にて 『通商産業省環境立地局長賞』受賞 6月 福山リサイクルセンターが『ひろしま環境賞』受賞 9月 社団法人大垣青年会議所主催『西美濃共創アワード'97』にて 『こんな会社を誇りにしま賞』受賞 10月 日本食糧新聞主催『第6回食環境資源協力賞』受賞 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクルセンターが 『リサイクル推進協議会会長賞』受賞
1998	4月 関東リサイクルセンターにカラートレー自動選別機導入 7月 工場見学者累計100,000人突破 8月 福山リサイクルセンターに自動素材選別機導入	
1999	4月 主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)で ISO14001 認証取得 8月 トレー回収拠点 6,000 拠点突破	2月 代表取締役社長小松安弘が『毎日経済人賞』受賞 10月 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて『内閣総理大臣賞』受賞
2000	5月 エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号) トレー回収量月間450トンを記録 10月 各リサイクルセンターをリサイクル工場に呼称変更 11月 関東リサイクル第1工場稼働開始 旧工場を関東リサイクル第2工場に改称	
2001	5月 東海リサイクル工場(旧沼津リサイクルセンター)閉鎖 9月 福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設	7月 「第4回エコライフびわ湖賞」にて『アイディア部門優秀賞』受賞
2002		
2003	2月 関東リサイクル第1工場でISO14001認証取得 3月 岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定 4月 関東リサイクル第1、第2工場を集約 関東リサイクル工場に改称 5月 佐賀県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定 6月 岐阜県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定 10月 宮城県にて「エコトレー」が廃棄物再生資源利用製品に認定 11月 工場見学者 累計 200,000 人突破	11月 「ウエステック大賞2003」にて『事業活動部門賞』受賞
2004	3月 広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録 12月 「トレー to トレー」が第20類 & 第40類で商標登録(第4322974号)	
2005	4月 CO ₂ マネジメント委員会設置 5月 「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号) 8月 笠岡工場が岡山県エコ事業所として認定 11月 笠岡工場 ISO9001 認証取得	9月 『愛・地球賞』受賞 
2006	3月 関東下館工場 ISO9001 認証取得 回収量月間550トンを記録 4月 環境経営5ヵ年計画スタート 10月 近畿亀岡工場 ISO9001 認証取得	
2007	3月 回収量月間579トンを記録 10月 屋上緑化対応の工場稼働(中部第2工場) 12月 太陽光発電システムを備えた本社新社屋の落成 透明容器の光学自動素材選別装置稼働開始	4月 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて 『製品部門最優秀賞』受賞 8月 「ものづくり大賞」にて『経済局長賞』受賞  

環境関連法規制・食の安全

8月 IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が地球温暖化を警告

10月 「資源の有効な利用の促進に関する法律(通称:リサイクル法)」施行

6月 リオデジャネイロで第1回地球サミット開催

2月 国連が「持続可能な開発委員会」を発足

11月 「環境基本法」施行

7月 「製造物責任法(PL法)」施行

4月 「容器包装リサイクル法」施行(ペットボトル、ガラス)

12月 COP3(第3回気候変動枠組み条約締約国会議)が京都で開催
「京都議定書」採択

7月 官報(号外第143号)容器包装リサイクル法にて当社のリサイクル及び
「トレー to トレー」の再商品化が明文化される。

1月 「ダイオキシン類対策特別措置法」施行

4月 「容器包装リサイクル法」の全面実施(その他紙及びその他プラが追加)

5月 O-157 発生

6月 「循環型社会形成推進基本法」施行

4月 「グリーン購入法」施行

「家電リサイクル法」施行

5月 「食品リサイクル法」施行

9月 BSE 発生

4月 「PRTR法」施行

「建設資材リサイクル法」施行

2月 「土壌汚染対策法」施行

4月 「改正省エネ法」施行

6月 「食品安全基本法」施行

7月 食品安全基本法施行に伴ない内閣府に食品安全委員会設置

1月 鳥インフルエンザ発生

1月 「自動車リサイクル法」施行

2月 「京都議定書」発効

4月 「改正省エネ法」施行

「改正温対法」施行

4月 「改正容器包装リサイクル法」施行

12月 「改正食品リサイクル法」施行

編集後記

エフピコ「CSR Report 2008」を最後までご覧いただき誠にありがとうございました。今回は環境カウンセラーの崎田様をお招きし、弊社の活動についての貴重なご意見を頂戴しました。今後の活動に反映させてまいります。

また、2007年版レポートへのたくさんのご意見を頂戴し、かさねて御礼を申し上げます。寄せられたアンケートの中に、下記グラフのように、ページの数字、数値、グラフなどに読みにくいところがあるというご指摘がありました。2008年度版では、全体的に読みやすい大きさ、色、文字の種類を使用することに心がけております。また、アンケートの記入方法にも、わかりにくいというご意見も頂きましたので、よりご回答いただきやすいよう、アンケート用紙にも報告書対応ページを掲載いたしました。今後も皆さまのご意見を参考に継続的な改善を進めてまいりますので、当レポートにも添えておりますアンケートにお答えいただければ幸いに存じます。

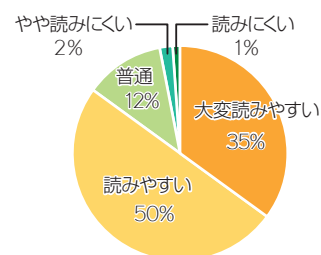
次回は2009年6月発行を予定しております。発行にあたりご協力いただいた社内外の関係者の皆さまに感謝いたします。

2008年6月

環境対策室 歌島 秀明

前回アンケート結果より

レポート全体を通じた読みやすさについて
(レイアウト、文字の大きさ、写真、グラフ、表など)



CSR Report 2008

発行日:2008年6月

制作部門・問い合わせ先

株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036

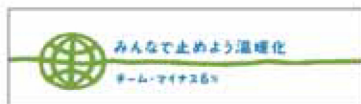
東京都新宿区西新宿六丁目8番1号

新宿オークタワー(総合受付36階)

TEL 03-5325-7800 FAX 03-5325-7811

E-mail: EcoTray-3R@fpco-net.co.jp

ホームページ: <http://www.fpco.co.jp>



エフピコは「エコトレ」でチーム・マイナス6%に参加しています。



株式会社エフピコ

- | | | |
|--------------------------------------|---|------------------|
| ●本 社 | 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目12番15号 | TEL(084)953-1145 |
| ●東 京 本 社 | 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー 36F | TEL(03)5320-0717 |
| ●大 阪 支 店 | 〒560-0083 大阪府豊中市新千里西町一丁目1番8号 第一火災千里中央ビル6F | TEL(06)6835-5370 |
| ●札幌 ●仙台 ●新潟 ●静岡 ●北陸 ●名古屋 ●広島 ●高松 ●福岡 | | |

ホームページ <http://www.fpcoco.jp/>

Eメール EcoTray-3R@fpcoco-net.co.jp